

2025 大阪・関西万博を契機とした地方公共団体による地域活性化  
に資する国際交流具体化のための調査

調査報告書

株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所

令和6年3月

**NTT DATA**

株式会社 NTTデータ 経営研究所



## 目次

第1章. 調査概要 .....	1
1. 調査の背景・目的 .....	1
2. 実施内容 .....	2
第2章. 調査対象プロジェクトの実施結果 .....	3
1. 調査対象プロジェクトの概要 .....	3
2. 各調査対象プロジェクト .....	5
A. 栃木県那須塩原市 .....	5
C. 岐阜県 .....	11
D. 岐阜県岐阜市 .....	17
E. 岐阜県恵那市 .....	25
F. 岐阜県八百津町 .....	31
G. 兵庫県三木市 .....	43
H. 兵庫県南あわじ市 .....	48
I. 奈良県 .....	53
J. 和歌山県有田市 .....	63
第3章. 成果のとりまとめ .....	69
1. 成果報告会 .....	69
2. 事業の成果概要 .....	80
3. 他自治体への普及・展開方策 .....	83

## 第1章. 調査概要

### 1. 調査の背景・目的

2025年国際博覧会（以下「大阪・関西万博」という。）は、20年ぶりに我が国で開催される国際博覧会である。諸外国の関心も高く、現時点で153の国・地域の参加表明が得られている。国際博覧会は、かつては、各国の産品や最新の科学技術の展示を目的とするものであったが、近年は、人類共通の社会的課題解決を目的とするものになり、各国の団体や人々が相互に意見交換を行う機会の創出等の参加型のイベントも開かれるようになった。

自治体や地域住民にとっても、大阪・関西万博に参加し、各国と交流することを通じて、地域の未来を担う若者の国際感覚の涵養、地域の魅力の再発見、住民間の結びつきの強化、地域産業の活力増強などが期待できると考えられる。大阪・関西万博の機会を活用した国際交流事業の在り方については、国及び自治体における知見の蓄積が十分ではないため、地域活性化に資する国際交流の取組みに係る調査を実施中であるが、その調査において人口規模の小さい自治体の参画を促進する仕組みを調査する必要が明らかになった。また、交流計画については、子どもを中心とした交流計画が少なかったため、国際交流に意欲ある人口規模が大きい自治体について、どのような国とマッチングし、どのような計画をもって子どもを中心とした国際交流に取り組むべきかについての知見の蓄積が不足していることが明らかになった。

本事業では、2025年の万博開催期間や事前交流における国際交流事業の実施に向けて、自治体において各国の万博関係者を受け入れて交流事業を実施するために必要な事前の調査・交渉や交流計画の策定、相手国に渡航しての交渉、相手国関係者を自治体に招へいしての現地調査を行う。

## 2. 実施内容

本調査は、内閣官房国際博覧会推進本部事務局（以下「主管事務局」という。）と連携しながら、2025年の万博開催期間や事前交流における国際交流事業の実施に向けて、前述の目的の趣旨に合致すると思われる取組を行う調査対象自治体に対する調査を実施する。具体的な実施内容は、以下の通りである。

調査実施内容

No	調査実施項目	調査実施内容
1	コーディネーターの設置	・ 国際交流が円滑に行えるよう、コーディネーターを各調査対象自治体に設置する。コーディネーターと連携して実施する業務は、調査対象自治体と相手国との交流マッチング支援、調査対象プロジェクトの計画策定、調査対象自治体の取組への伴走業務とする。また、設置するコーディネーターについては、各調査対象自治体及び主管事務局との協議・調整の上、設置する。
2	調査対象自治体と相手国との交流マッチング支援	・ 主管事務局が選定した自治体のうち交流相手国が決まっていない自治体に対して、交流相手国のマッチング支援を行う。
3	調査対象プロジェクトの計画策定	・ 調査対象自治体、コーディネーター及び交流相手国と協議し、万博国際交流の企画案の作成を行い、当該年度から大阪・関西万博に向けた交流計画書を取りまとめる。
4	調査対象自治体の取組への伴走業務	・ 策定した計画に基づく交流事業に対して支援を行うこと。具体的には、自治体が取組む事業の準備・実施・取りまとめにあたり、調査対象自治体に対し、打ち合わせ、アドバイス、関係団体への取り次ぎ、進捗管理またはヒアリング等を実施する。

## 第2章. 調査対象プロジェクトの実施結果

### 1. 調査対象プロジェクトの概要

自治体と共にコーディネーターにより企画された子どもを中心とする国際交流の取組事例を調査・分析し、地域の活性化に資する国際交流施策の係る先導的事例の横展開に必要な取組モデルの開発・精緻化を図った。各自治体における調査対象プロジェクトの実施概要を以下に示す。

調査対象プロジェクトの実施概要

No	自治体名	実施概要
A	栃木県那須塩原市	昨年度的那須塩原市の合唱交流を発展させ、万博での合唱交流を計画。成功に向けたプレイベントとして、オーストリア及び同国と交流する3自治体の中学生等が大阪府内で合唱を行う。
B	石川県志賀町	ホストタウン交流から文化等含む総合的継続的な交流への発展を目指す。志賀町高校生がアゼルバイジャンを訪問してナショナルチームのレスリング練習に参加するほか、アゼルバイジャンの一般家庭にホームステイし、互いの地域を理解する交流等を行う。 ※2024年1月1日に発生した能登半島地震の影響を受け、予定していた事業の実施を中止した
C	岐阜県	ともに食や自然環境などの地域資源を生かした観光に取り組むアルザス欧州自治体との交流を万博を契機に深化。子どもたちや住民も参加した交流を目指す。
D	岐阜県岐阜市	60年にわたる中国・杭州市との交流を万博を契機に更に深化。中国の歌舞団を招聘して、子どもたちが中国文化に触れる鑑賞イベントの開催等。
E	岐阜県恵那市	ホストタウン交流を、市立中山道広重美術館とポーランドの「日本美術技術博物館マンガ」の協力など文化交流に発展。相互の紹介パネルの展示。現時点の予定では、ポーランド万博チーム関係者（開発投資庁大阪関西万博2025チーム、ポーランド総市長）の招聘し市民との交流を予定。
F	岐阜県八百津町	町出身の外交官杉原千畝の赴任地カウナス市との交流を万博を契機に深化。双方の小中学生が絵を合作。画用紙に橋の半分を描いて大使館に送り、大使館からリトアニア

No	自治体名	実施概要
		に送り残りをリトアニアの子どもたちに描いてもらう。リトアニアの春祭りにあわせて町内でイベント開催等。
G	兵庫県三木市	万博での交流を成功させるためのプレイベントとして、市内の高校生とフランス人が参加して三木金物鉋（かんな）を使用したマイ箸づくりワークショップを大阪市内で開催。
H	兵庫県南あわじ市	ともに産地であるトロペア市とタマネギ文化交流を目指す。トロペア市の取組も参考に、市内のこどもたちを募集して両市のタマネギ紹介イベントを開催等。
I	奈良県	サマルカンド州政府等と実務者協議を実施することにより、両県州の子ども交流をはじめ、来年度に予定している知事訪問団及び奈良県青年団の派遣など、両県州間の交流計画を策定。 ウズベキスタン大使館職員による県内中学校での出張授業実施。
J	和歌山県有田市	ドバイと、中学生同士が次世代エネルギーを学習する交流を目指す。今後、中学生のドバイ派遣、中学校のオンライン合同授業、万博ナショナルデーへの参加等を検討。

## 2. 各調査対象プロジェクト

### A. 栃木県那須塩原市

#### (1) 背景と目的

##### 1) プロジェクトの背景

2020 年東京大会のホストタウン交流は現在もレガシーとして受け継いでおり、この経験を活かし 2025 年の万博に繋ぎ両国の交流の推進を図ることが重要であると考えます。昨年度はプロジェクトモデル事業に参加し、2025 年万博に向け、オーストリアと那須塩原市の学生がオンラインで合唱と懇談を行う取り組みを行った。今回は、2025 年万博を見据えて、昨年度行った合唱交流を万博の会場地である大阪の地で、オーストリア及びオーストリアと関係を持つ 3 自治体と、地元大阪の学生がイベントとして合唱交流を開催することで、事業の検証と両国の万博における機運醸成に繋げる。また、本市や学校の理解を深めるため那須塩原市を訪問し交流を行う。

##### 2) プロジェクトの目的

オーストリアとオーストリアと連携する学生が、ともに万博会場地の大阪市で合唱交流を万博関係者や市民に披露し万博に向けた両国の機運醸成を行う。

両国の学生が懇談会を開催し、互いの理解と友情を深めるとともに、相互交流の推進に繋げる。  
相手国の学生が自治体を訪問し親睦を深め、日本の教育についての理解を深める。

#### (2) 事業内容

##### 合唱交流

##### ① 概要

栃木県那須塩原市、山形県長井市、岩手県矢巾町の中学生とオーストリアの学生及び大阪市の中学生在一堂に介し万博会場の大阪で合唱交流を開催。

##### ② 日時

開催日 令和 6 年 3 月 17 日(日) 午後 4 時 00 分から 5 時 40 分

リハーサル 令和 6 年 3 月 16 日(土) 午後 1 時 30 分～8 時 00 分

##### ③ 場所 大阪市 大阪国際交流センター 小ホール

##### ④ 参加者

(ア) リンツ市 アダルベルト・シュティフター高校、栃木県那須塩原市 三島中学校、  
山形県長井市 長井北中学校・長井南中学校、岩手県矢巾町 矢巾北中学校 22 名

(イ) 大阪府大阪市 阪南中学校 19 名

⑤ 合唱曲

【アダルベルト・シュティフター校、三島中、長井北・南中、矢巾北中の合唱曲】

(ア) 両国国歌 君が代(日本国歌) Land der Berge, Land am Strome (オーストリア国歌)

(イ) 日本の歌 ほたるこい〔ロマンティックアレンジ〕スタジオジブリ・メドレー

(ウ) オーストリア曲

シューベルト作曲「鳥の歌声が聞こえるかい」「菩提樹」

春の歌「美しい春の季節に」

【阪南中の合唱曲】 歌声はどこにいくの・「帰郷」・「ボクはウタ」・「群青」

【全校合同合唱曲】「春よ、来い」松任谷由実

【全員合唱】博覧会テーマソング「この地球の続きを」コブクロ

⑥ 参加来賓

在日オーストリア大使館大使 オーストリア博覧会事務局 2025年日本国際博覧会協会、内閣官房国際博覧会推進本部事務局、在日オーストリア大使館商務部、大阪市教育委員会事務局

【日 程】令和6年3月15日(木)～3月17日(日) 3日間



【全生徒による合唱】

【3自治体とリンツの生徒の合唱】

【リハーサルの様子】



【みやくみやくとの合唱】

【博覧会協会からの説明】

【懇談会の様子】

学校訪問

① 概要

オーストリアのリンツ市の学生が、交流する学校訪問を行い交流会を行う。

② 実施内容

(ア) 那須塩原市立三島中学校

ブラスバンド部の歓迎演奏や合唱部との合同合唱、各部の部活動紹介  
(イ) 那須塩原市立箒根学園  
授業参加や給食体験、合唱披露

【日 程】令和6年3月18日(月)～3月19日(火) 2日間



【三島中ブラスバンド部の歓迎】



【三島中合唱部との合唱】



【箒根学園交流会】



【箒根学園での合唱】

### (3) 実施に至った経緯

昨年度のモデル事業を経て、2025年の万博に向けた具体的取り組みを検証する目的として相手国からの学生を招待し、会場地である大阪市でイベントを開催することで2025年に向けた準備を進める。また、この機会に交流学校を訪問し、さらなる交流の推進を行う。

### (4) 実施スケジュール

令和5年11月20日・29日・12月14日・令和6年1月22日

オンライン担当者会議

令和6年2月22日・3月1日・11日

オンライン合唱練習

令和6年3月15日 博覧会協会によるリンツ学生へのレクチャー

令和6年3月16日 3自治体・リンツ学生合同リハーサル

令和6年3月17日	合唱交流会 3自治体・リンツ・大阪市学生
令和6年3月18日	リンツ学生 那須塩原市立三島中訪問
令和6年3月19日	リンツ学生 那須塩原市立箒根学園訪問

## (5) 実施体制

- ・主催：那須塩原市・長井市・矢巾町
- ・共催：大阪市・大阪市教育委員会事務局

## (6) プロジェクトの目標に対する成果

### 本プロジェクト実施により元々の自治体の課題の解決に本プロジェクトが寄与した点

- ・ 合唱交流をウェビナー配信することで、相手国も含め多くの視聴者に2025年万博の機運醸成に繋げることができた。
- ・ 国内の自治体が連携することにより、より多くの協力関係者を確保でき、事業に向けた意思疎通が図られた。
- ・ リンツの学生は初めての日本訪問だったが、多くの関係者の協力により日本に対する高い評価が得られた。
- ・ メディアで取り上げられることで多くの市民に事業紹介ができ、万博についての機運醸成に繋がった。
- ・ 那須塩原市の訪問では、互いの学生が積極的に交流する姿がみられ、継続的な取り組みに期待が持てた。

### 調査対象自治体内への波及効果、相手国への波及効果

- ・ 地元メディアでも取り上げられることで、市訪問では市民の話題と注目となった。
- ・ 学校訪問では、直接生徒同士が交流することで、相手国への関心がさらに深まった。
- ・ オンライン配信により相手国の関係者の話題となった。
- ・ オーストリアパビリオンのテーマが「音楽」であることから、両国が共に合唱を披露することで、相手国関係者に対し強い信頼と印象を与えることができた。
- ・ 互いが相手国の歌を歌うことで、相手を理解するきっかけとなり、交流の推進に繋がることのできた。
- ・ 合同合唱、懇談会、学校訪問を通して、2025年の万博に向けて両国の学生の機運醸成や自治体間の相互交流の推進、自治体の知名度の向上に繋がった。

### 成果が出なかったものの課題と原因と対応策

#### 【課題】

- ・ 大阪市の学校の協力が十分に得られなかった。
- ・ 終了時間が大きく変更になることになった。

- 作業準備に多くの時間を要した。

#### 【原因】

- 本事業の趣旨が、大阪市の学校によく理解されていなかったこと。
- 互いの国の通訳時間の予測がつかめなかったこと。
- 個々が内容の充実を行ったため事業内容が大きく膨らんだこと。

#### 【対応策】

- 関係者が目的について相互の十分な打合せの機会を持つ。
- 作業内容の分散をさせ作業負担の軽減を図る。
- 作業準備に十分な時間を確保することで、通訳の負担を軽減させる。

### (7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

今まで続けてきた合唱交流を引き続き行うことが、両校や両市の信頼関係の構築につながる事を確信した。

引き続き連携自治体の協力により協働の取り組みや、友好都市としての将来の関係を据えた動きに期待できる。

### (8) 特に良かった点、苦労した点

#### 1) 良かった点

- リハーサルでは互いの国の学生が相互理解をするための情報交換により、高い精度の合唱が出来た。
- 合唱に向け心を一つに成し遂げる目標が出来、観客の心を掴むイベントとなった。
- 会場地である大阪市の学校も加わったことで、合唱交流会に広がりが出来来場者も増えた。
- オンラインの練習は、事前に生徒の距離感がなくなり、実際の取り組みの課題を共有できた。
- 交流懇談会を開催することで絆と友情が生まれた。
- 大使館や万博関係者も参加することで、万博に向けた機運がさらに高まった。

#### 2) 苦労した点

- 関係する自治体が多く事前準備や全体調整に多くの時間を要した。
- 事前練習ではオンライン環境の違いから練習に影響が出た。
- 学校によっては十分な意思の疎通が図れなかったため進行に影響が出た。

### (9) 今後の課題

- 事業参加校の募集の在り方  
※ 教育委員会や学校との調整

- 2025年の万博に向け合唱交流実施のための体制づくり
  - ※ 早期にプロジェクトチームの立ち上げや関係機関との話し合いの実施
- 2025年の万博における会場の確保
  - ※ 首長連合催事計画への参加や、相手国テーマウィークデーを活用した参加方法の検討
- 2025年万博における催事に向けた相手国との調整
  - ※ 両国の博覧会協会や大使館の話し合いや調整の実施
- 2025年の万博における事業予算確保に向けた調整
  - ※ 早期に予算計画の策定と補助金の活用及び議会説明

#### (10) 今後の展開内容

2024年4月	市内学校合唱チームの立ち上げ
2024年5月	リンツ市学校オンライン打ち合わせ
2024年6月	市内学校合唱練習開始
2024年9月～	リンツ市学校とのオンライン合唱交流
2024年3月	合同合唱オンラインコンサート
2025年7月	オーストリア合同合唱会場披露

#### (11) 持続的に展開するための工夫

- 役所内の横断的なプロジェクトチームの立ち上げ
- 専門家の協力により多岐にわたる計画案の策定と協議
- やる気のある市民ボランティアの募集や、協力企業の確保
- モデル事業で参加した生徒や関係者など知見者の活用
- 相手国の博覧会協会、両国大使館、大使館商務部、市役所などの理解と調整
- 国際交流員の積極的な活用

## C.岐阜県

### (1) 背景と目的

#### 3) プロジェクトの背景

本県は、2014年11月にフランス・アルザス欧州自治体（旧オ＝ラン県）との間で経済・観光に関する協力覚書を交わし、以後、官民による重層的な交流を進めている。また、昨年9月には新たにスポーツや文化、青少年育成などの交流を新たに進めることとし、その中でお互いの食文化に触れることを目的とした旅行「ガストロノミー・ツーリズム」の分野で協力していく。

一方、本県は全国的に有名な温泉を数多く有しているが、自然の恵みである温泉や、周辺の豊かな自然環境といった地域資源を一体的に体験できる機会が少ない。特に欧米からの観光客には体験型の観光に人気があるため、万博を契機として、ガストロノミー・ウォーキングの本場アルザスとの交流を更に進めることで、ONSEN・ガストロノミー・ウォーキングの知見の向上や相手国とのさらなる繋がりを深める活動を実施していきたい。

#### 4) プロジェクトの目的

アルザス欧州自治体や県内関係自治体等との協議により、令和6、7年度にアルザス地域との連携を通じた持続可能なONSEN・ガストロノミー・ウォーキング事業の実施及び魅力向上を図る。

青少年交流やスポーツ交流などの国際交流の進展や地域の活性化に資する経済交流の実施に向けた企画立案を行う。

### (2) 事業内容

本県内において、ONSEN・ガストロノミー・ウォーキングの実施に向け、ガストロノミー・ウォーキングの本場であるフランス・アルザス地域を訪れ、アルザス欧州自治体関係者等と実務に関する意見交換及び事前調査を実施した。

【日 程】令和6年2月11日（日）～2月15日（木） 5日間



【アルザス欧州・日本学研究所との協議】



【アルザス欧州自治体との協議】



【コルマル市との協議】



【リクヴィル村との協議】

### (3) 実施に至った経緯

本県とフランス・アルザス欧州自治体とは、2014年4月の飛騨地酒ツーリズム協議会とアルザスワイン街道との友好宣言を皮切りに、同年11月にはアルザス欧州自治体の前身であるオ＝ラン県と本県との間で経済・観光分野に関する協力覚書を締結した。以降、県内自治体である高山市及び白川村においてもそれぞれコルマル市、リクヴィル村との間で友好関係を結び、官民の重層的な交流がはじめられた。

特に、2017年9月にはアルザスにてガストロミーウォーキングである「アルザスふれあいウォーキング」が開催され、本県知事・県議会議長をはじめ岐阜県から多くの関係者が参加した。更に、2018年6月には高山市奥飛騨温泉郷平湯温泉で ONSEN・ガストロミーツーリズムを県下で初めて開催し、オ＝ラン県関係者も参加してアルザスワインが提供されるなど相互の交流が図られた。

このような状況において、2021年から新型コロナの影響により、フランスとの交流・往来が途絶えたが、2023年9月に本県知事がコルマルを訪問し、本県とアルザス欧州自治体（オ＝ラン県とバ＝ラン県

が合併)との間で、「協力協定」を更新し、新たに青少年における芸術、文化、スポーツなどの相互理解を深めることに合意した。

本県としては、大阪・関西万博を契機として、アルザス地域との連携を深めるため、その交流のシンボリック的存在である ONSEN・ガストロノミーウォーキングを県内で再開するとともに、文化、スポーツ分野における青少年交流や、ワインと日本酒の経済交流を更に深めていくこととした。

#### (4) 実施スケジュール

令和5年11月15日～	フランス・アルザス欧州自治体とのコーディネーターである アルザス・欧州日本
令和5年12月6日	学研究所(CEEJA)との間で、現地事前調査の日程・行程等を調整
令和5年12月7日	アルザス欧州自治体への訪問日の確定
令和5年12月26日	高山市及び白川村を訪問し、コルマール市及びリクヴィル村との現在の交流状況、ONSEN・ガストロノミーウォーキングの実施候補地等を協議
令和6年1月23日	CEEJAとZoom会議を実施し、来年度の事業実施日程等を協議
令和6年2月7日	高山市及び白川村を訪問し、アルザスへの訪問日程、 協議内容等を共有
令和6年2月11日～15日	フランス・アルザス欧州自治体へ訪問し、事前調査を実施
令和6年2月29日	高山市長及び白川村長と面談し、仏訪問結果及び今後のスケジュール 等を協議し、来年度の事業実施に向けた協力を依頼

#### (5) 実施体制

- ・岐阜県側：環境生活部環境生活政策課、観光国際部国際交流課(協力団体：高山市、白川村)
- ・フランス・アルザス側：アルザス欧州自治体、アルザス・欧州日本学研究所(CEEJA)

#### (6) プロジェクトの目標に対する成果

##### ① ONSEN・ガストロノミーウォーキング事業の実施にむけた情報収集

今回のプロジェクトにより、来年度実施するウォーキング事業におけるアルザスブースの設置にあたっての内容(料理、飲み物、ブース内の装飾(パネル写真等)及びオープニングセレモニー時におけるアルザスの伝統的な踊りや歌等のパフォーマンスについて情報収集するとともに、引き続きの情報提供を依頼することができた。

特に、料理に関してはアルザスの代表料理である「シュークルート(キャベツの酢漬け)」や「プレッツェル(塩味の結び目のあるパン)」、「シュベッツレ(柔らかい卵麺)」、「クグロフ(デザート)」をコース料

理を出すように、前菜→メイン→デザートと順番に提供するのが現地の手法であり、日本のような地元の名物料理を単発的に提供することはしない点が大きく異なることが分かった。

また、オープニングセレモニー時におけるアルザスに関する踊り、歌等のパフォーマンスについては、本県近隣の民族博物館において所蔵するアルザス民族衣装、関連小物等の借用も考えられることが判明した。アルザスにおけるガストロノミーウォーキングの実施体制としては、地域の協会・団体（アソシエーション）がウォーキング事業を運営しており、その担い手はアソシエーションが確保している。なお、アルザス観光局は、ウォーキング参加者の保険料や警備費用を支援していることが分かった。

#### ② アルザス欧州自治体関係者の岐阜訪問及びウォーキング事業への参加

ONSEN・ガストロノミーウォーキング事業の中で重要となるアルザス側からの参加に関し、アルザス欧州自治体議長、同副議長（コルマル市長を兼務）、CEEJA 所長などの要人一行が本年 10 月に訪日予定であることが確認でき、一行が本県滞在中に同事業への参加を調整することで合意した。

#### ③ スポーツ、文化面における青少年交流の推進

アルザス側より、今後、青少年のスポーツ交流を活発化させたいとの要請があり、フェンシング、柔道、空手などの指導者及び中高生における相互交流について、本年 10 月の岐阜訪問時に県内強豪校やクラブチームなどへの視察を実施することで合意した。

特にフェンシングに関しては、コルマル市内に合宿施設も併設するフェンシング競技場があり、オリンピックの金メダリストも輩出するなど非常に力を入れている。本県も全国的な強豪校があり、今後、両地域の新たな交流の柱となる可能性がある。

また、来年度、本県において開催される国民文化祭である「清流の国ぎふ文化祭」の期間中に、アルザスの青少年の芸術作品を出展するため、引き続き調整することで合意した。

#### ④ 大阪・関西万博への参加団体との連携の推進

アルザス地方の AOC（原産地統制呼称）認証ワイン全てを管理する多職種連携組織であり、フランス国内外におけるアルザスのワイン及びブドウ畑のプロモーション等を実施する「アルザスワイン委員会」が、大阪・関西万博のフランスパビリオンにおけるゴールド・パートナーとなり、万博開催期間中に大阪でのプロモーションに参加することが判明した。そのため、今後、本県との間で万博開催期間中における会場内外での連携を視野に調整を図ることとした。

### (7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

今回の取組を通じて、本県のONSEN・ガストロノミーウォーキング事業が将来に渡り持続可能で国際的に開かれたものとなることにより、「ONガスといえば岐阜」あるいは「ONガスといえば飛騨」というような存在となり、後の世代にわたりレガシーとして残していけるよう事業を実施していきたい。

更に、両地域の将来を担う若い世代が、スポーツ交流や芸術・文化交流を通じて、お互いの文化、伝

統、歴史を理解・尊重し合い、国際的に開かれた地域づくりを進めるとともに、大阪・関西万博を契機としたワインと日本酒の経済交流が一層進展するよう、本県としても注力していきたい。

## (8) 特に良かった点、苦労した点

### 5) 良かった点

本年度のアルザス訪問により、現地の人々の率直な意見、感想を生で聞くことができた。例えば、アルザスの人々の料理に対する関心は非常に高く、アルザス観光局との協議の大きな部分が料理に関する議論に向けられた。また、コーディネーターであるC E E J Aとの昼食を交えた懇談では、実際にアルザス料理が提供され、フランス、ドイツ両国の影響を受けたアルザス地方の食文化についての話を聞くことができ、オンライン会議では知りえない情報を得ることができた。

また、コロナ禍により数年間往来が途絶えていたため、今回のアルザス訪問により、両地域における観光、文化、青少年等の各種交流を再開するための議論が深められた。さらに、大阪・関西万博へアルザスワイン委員会が参加し、万博開催期間中における連携について今後調整していくこととなったのは、現地訪問をきっかけとして入手できた情報であり、改めて対面による協議の必要性を再確認した。

### 6) 苦労した点

事業実施期間が短かったため、フランス訪問日程の調整に時間を要した。

## (9) 今後の課題

ONS EN・ガストロノミーウォーキングを実施するうえで、地元の自治会、商店街、飲食店などの協力・参加が不可欠であるため、今後、高山市や関係団体の協力を得ながら、ウォーキング参加者と地元住民とのふれあいが図られるよう事業を企画していく必要がある。

アルザスブースの具体的な内容について、今後、アルザス側から提供される料理情報や写真などの資料を確認し、より魅力的なブースづくり及び地元住民や子どもとの交流の機会創出を進めていく。

## (10) 今後の展開内容

令和6年度の取組みとして、以下の事業を予定している。

- |        |   |
|--------|---|
| R6.10月 | ・仏・アルザス欧州自治体関係者の岐阜県訪問<br>・仏・アルザス地域と連携したONS EN・ガストロノミーウォーキングの実施<br>・青少年のスポーツ交流に向けた県内スポーツクラブ等の視察<br>・アルザスの青少年の芸術作品の展示 |
| R6年度中  | ・アルザス地方紹介パネル展、アルザス物産展の開催  |

## (11) 持続的に展開するための工夫

ONSEN・ガストロミーウォーキングの持続可能性を高めるには、各地域の温泉地において、官主導ではなく地元主導の体制を構築していく必要がある。しかし、コロナ禍を経て現在も県内温泉地は人手不足が顕著であり、外部委託やボランティアを可能な限り活用して、地元関係者のウォーキングイベントに要する労力、手間をいかに省力化する工夫が肝要である。そのため、アルザスの事例をさらに調査し、今後の参考としていきたい。

## D.岐阜県岐阜市

### (1) 背景と目的

#### 1) プロジェクトの背景

日中国交正常化の10年前となる1962年に、岐阜市と杭州市は、日本と中国が二度と戦争をしないようにとの願いを込めて、平和と友好の誓いである「日中不再戦碑文」を交換した。この60年前の出来事は、日中友好のさきがけとも言われ、この縁をきっかけに、1979年に杭州市では第一号となる友好都市提携を行った。以来、青少年の相互派遣をはじめ、学校交流、病院交流、図書館交流など、文化、芸術、教育、産業、医療、学術等の様々な分野において長きにわたり、交流を進めてきた。

しかし、交流開始から60年という月日が経ち、当時のことを知る人も少なくなっている中、コロナ禍において、直接会って行う対面交流が中断した。長きにわたる友好の絆を途絶えさせないためには、事業の継続と、若い世代への継承が必要である。万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」を描くのは、これからを担う青少年であり、注目度が高い万博を一つの契機とし、先人が築き上げてきた日中友好の絆を未来へとつなげていきたい。

#### 2) プロジェクトの目的

##### 【今年度】

- ・岐阜市国際交流月間イベントの市民参加率 UP。
- ・中国（杭州市）への市民の関心度 UP 及び理解促進。

##### 【来年度以降（中長期）】

- ・訪日／訪中観光客数の増加。ぎふ長良川の鶺鴒の乗客数増。
- ・岐阜市国際交流月間イベントへの市民参加率 UP。
- ・日中不再戦碑文交換についての認知度上昇。
- ・在住中国人との友好関係改善。多文化共生への理解促進。

### (2) 事業内容

#### ① 杭州市文化芸術団の招聘

【日 程】令和6年2月24日（土）～2月28日（水） 5日間

杭州市から杭州市文化芸術団（計10名）を招き、市民を対象にした記念公演を実施。市民らに中国の伝統文化にふれてもらうほか、市内で活動するながら児童合唱団と共演し、ともに舞台を作り上げた。

また、杭州市文化芸術団による友好校訪問や市民団体等との交流会を通じて、岐阜市民との親交を深めた。

## 岐阜市・杭州市友好都市提携 45 周年記念

「春江花月夜・杭州の調べ」-杭州芸術学校特別記念公演-

日時：令和6年2月25日（日）18時～19時20分

場所：岐阜市民会館（岐阜市美江寺町 2-6）

出演者：杭州芸術学校一行9名、ながら児童合唱団、ミyakumiyaku

入場者数：834名

来賓：（駐名古屋中国総領事、岐阜県日中友好協会理事長、杭州市名誉市民など）

内容：1 主催者挨拶

2 大阪・関西万博紹介

3 ながら児童合唱団とミyakumiyakuによる万博テーマソング披露

4 ながら児童合唱団による合唱

5 岐阜市と杭州市との交流の歩み

6 杭州芸術学校による演目

7 フィナーレ（総出演者による合唱）



【冒頭でミyakumiyakuが登場】



【万博紹介動画を投影】



【万博テーマソングを合唱】



【ダンス振り付けも披露】



【ながら児童合唱団が四季の歌や童謡を披露】



【岐阜市と杭州市との交流の歩みを紹介】



### 【杭州芸術学校の演者による舞台】



### 【総出演者が合唱で共演】



### 【総出演者が合唱で共演】

### 【ロビーに万博コーナーを設置】

#### 友好校訪問

日時：2024年2月26日（月）本荘小学校（500名）、長良東小学校（124名）

2月27日（火）本荘中学校（400名） 計1024名

内容：杭州市文化芸術団が友好校を訪問し、在校児童生徒らに歌舞を披露した。

児童生徒は、ソーラン節や合唱を披露して交流を図った。

また、児童生徒らは、即興で布回しや扇の振り付けなども教わり、ともに短い演目を作り上げるなど、交流を楽しんでいた。

#### ② パネル展示

【日 程】令和6年2月1日（木）～2月21日（水） 21日間

場所：みんなの森 ぎふメディアコスモス みんなのギャラリー

「国際交流展～岐阜市と世界とのつながり～」と題し、岐阜市の友好姉妹都市6都市について紹介。中国・杭州市との提携の経緯・交流の歩みのほか、2025年の大阪・関西万博の紹介や、

2月25日開催の記念公演についてを紹介する特設ブースを開設し、来場者らにPRした。



【万博特設ブース】



【中国・杭州市紹介コーナー】

### ③ 子ども向け外国文化紹介ワークショップ

【日 程】令和6年2月11日（日・祝）10時～・13時～

みんなの森 ぎふメディアコスモスで開催。2回の開催で、合計30名が参加した。

最初に、中国の春節文化についてパワーポイントを使って説明。春節を祝う際に使う提灯を、キットを使って作成し、剪紙や折り紙、切り絵などで、提灯を思い思いに作成した。



【春節文化について説明】



【中国の提灯づくりに挑戦】

### (3) 実施に至った経緯

2024年は、岐阜市と杭州市の友好都市提携から45周年を迎えるため、杭州市から文化芸術団を招聘して、岐阜市民向け記念事業を開催することとなった。行政団については、2023年に岐阜市代表団が訪中、2024年に杭州市代表団を招聘予定である。

### (4) 実施スケジュール

令和5年11月15日～ イベント実施に向けた計画策定

令和5年11月15日～ イベント参加者調整

令和 6 年 1 月 26 日～ 事前告知  
令和 6 年 2 月 1 日～28 日 イベント開催  
令和 6 年 2 月 29 日～ 効果検証

## (5) 実施体制

- ・岐阜市ぎふ魅力づくり推進部国際課
- ・（公財）岐阜市国際交流協会

## (6) プロジェクトの目標に対する成果

両市の交流開始から年月が経過していること、そして、昨今の日中関係の悪化、コロナ禍において対面交流が途絶えたことなどから、先人が築き上げてきた日中友好の絆を若い世代へ継承していくことを課題としていた。

今回、2 日間にわたり、杭州芸術学校による友好校訪問を市内小中学校 3 校で実施。小学校 1 年生から中学校 3 年生まで、計 1024 名の児童生徒が交流会に参加した。交流会では、互いの演舞や歌の披露のほか、実際に中国の舞踊に使用する道具にふれ、杭州芸術学校の教師から演技指導を受けた。子どもたちにとって、こうした直の交流は非常に印象的で、貴重な体験となった。児童生徒を対象としたアンケートにおいても、今回の交流会をとおして、中国や杭州市に対する興味・関心が高まった児童生徒は、全体の 8～9 割を占め、また今後も中国や杭州市の人と交流や関わりを持ちたいと思った児童生徒も全体の 8～9 割を占める結果となった。また、「今後も杭州市と交流を続けたい」、「もっと中国のことを知りたい」「将来、中国に行ってみたい」など、今後の交流につながる意見が多く挙げられた。万博に向けて、杭州市や中国と国際交流を行うことについては、「互いの絆が深まる」、「国際交流を行うと平和になる」、「色々な国と関わることで自分の知識や夢が広がる」、「世界の人々が仲良くなれるきっかけになる」などと、未来を見据えた前向きな意見も多くあった。

杭州芸術学校からの参加者に対するアンケート結果を見ると、今回のイベントで期待した「中国と日本との団結力強化」の項目について、全員が期待以上のことが得られたと回答している。また、今回のイベントに参加して、日本や岐阜市への興味・関心が高まったと回答した人は 100%、今後も岐阜市と交流や関わりを持ちたいと回答した人も 100%と、今後につながる良い結果となった。参加者からも「子どもたちにとって、杭州市との友好、友情を養う基礎が築けた」「今後も毎年、活発な交流を行いたい」などの意見があり、今回の事業の趣旨である青少年交流や今後の友好関係の継続などに大いに貢献したと思う。

岐阜市国際交流月間イベントの市民参加率が UP した。令和 3 年は新型コロナウイルスのため、展示会のみ開催。令和 4 年は 161 人、令和 5 年は 864 人であった。記念公演開催などによる大型イベント実施により、参加率は前年比 5 倍に上昇した。今回のイベント開催により、多くの岐阜市民が中国文化にふれる機会が創出できた。国際交流に興味を持ってもらうきっかけづくりができた。

中国（杭州市）への市民の関心度 UP 及び理解促進ができた。記念公演には 834 名が参加した。

記念公演のアンケート結果から、今回のイベントを通じて中国や杭州市に対する興味・関心が高まった人が88.9%であったこと、また今後も中国や杭州市の方と交流や関わりを持ちたいと思った人が88.8%と、いずれも9割近くを占めたことから、目的としていた市民の関心度UPに対して非常に効果的であった。また、「日中両国は政治面ではギクシャクしているが、民間交流で親交を深めることは大事」「国際情勢は混乱しているが、国際交流のイベント開催の継続を望む」などの意見もあり、あらためて、自治体レベル、民間レベルでの草の根交流の重要性を認識することができた。成果が出なかったものについての原因分析をしたところ、今後も中国や杭州市の方と交流や関わりを持ちたいと思わなかった人は、全体の1〜2割程度おり、「杭州市の観光案内や市民の生活ぶり等がわかるスライドがあるとよかった」や「もっと話をしたり交流をしたかった」などの意見もあった。記念公演においても、学校交流においても、演者の負担を考慮して、比較的短時間での公演となったため、杭州市の魅力を紹介したり、互いに交流できる場面が少なかったのが原因だと考える。今後は、杭州市の魅力を紹介する企画を行ったり、招聘人数を増やすなどして交流時間を増やすなどの工夫をすると良い。今回の活動を踏まえて明らかとなった課題とその対応方針として、コロナ禍により中断していた国際交流だが、多くの市民が興味・関心を抱いており、きっかけがあれば、参加したいと思ってくれていることが分かった。特に、「文化交流」は取り組みやすく、言葉が通じなくても分かり合える非常に有効なツールである。岐阜市としても、国際理解に向けたこうしたイベントを企画し、より多くの市民に参加してもらえるよう努めたい。また、その際には、中国や杭州市のことをより深く理解してもらえるよう、市民参加型の企画や興味を引くようなイベントを考えていきたい。

## (7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

国と国との関係には政治的な問題等、難しい部分があるものの、草の根交流を絶やさないことが大切である。今回、中国への理解・交流を深めるイベントを開催することについて、市民の反応が不安であったが、実際は舞台公演のチケット一般申込が600人近くを達成し、最終的には会場の8割程を埋めることができ、大盛況だった。また、小中学校の訪問についても、歓声を上げたり、拍手を送ったりと、素直に感動する子どもたちの姿は非常に印象的だった。

こうした文化交流や民間交流は、市民の心に響きやすく、国際交流の素晴らしさを身近に感じることのできる良い機会であった。特に、青少年との交流は、後世に引き継いでいくためには欠かせないものであったと実感した。

## (8) 特に良かった点、苦労した点

### 1) 良かった点

杭州芸術学校の演者は、中国国内の著名な芸術学校を卒業した一流レベルのアーティストが所属している。そうした学校と今回一緒に事業を開催できたことで、今後も質の高い芸術文化を岐阜市民に提供できるきっかけが作れた。大阪・万博会場でも、ぜひ中国を代表する芸術学校として、岐阜市と一緒にステージイベントなどを開催したい。

## 2) 苦労した点

中国側とのやり取りが非常に大変であった。友好関係が長く続いている杭州市でさえも、中国国内における対日本への政策、対応を様子見して、国の動向に沿って動かないといけないため、リアクションが非常に遅く、実際に来岐が決定したのは開催 1 か月前のことだった。渡航ビザが下りたのも、春節中の訪岐 1 週間前のことだった。こうした動きは、受入事業を実施する上で、非常に困難を極めた。また、演者等についても、記念公演 3 日前に、舞台構成や台本の制作が始まり、非常に時間がない中で、様々な調整に苦労した。音響照明業者や共演の合唱団が舞台慣れしていたため、当日リハーサルでの最終調整のみで公演が無事に成功したのは、現場調整力のおかげであった。追加募集であったこともあるが、11 月に事業が決定し、2 月の開催は非常に大変だった。準備期間が短すぎて、希望する日にち、会場を確保することが難しいだけでなく、契約事務、支払いなど集中してこなさなければならなかった。特に、2 月末に事業を終了し、支払いを含め、諸々の事務手続きを 1 週間で終わらせることには非常に苦労した。

## (9) 今後の課題

今後、万博関連事業を実施する際には、対中国に関しては、自治体同士での交渉には限界があるため、国からのバックアップをいただきたい。外務省等を通じて、中国の中央政府に交渉し、上級政府から自治体に指示を下してもらったりやり方でない、動いてくれない国であるという特殊な実情を理解していただきたい。特に、杭州市は中央政府と近い関係にあるため、友好都市であっても、日本の小さな自治体の言うことはなかなか聞いてもらえず、苦労している。

## (10) 今後の展開内容

2024 年度は、杭州市行政団を招聘し、今後の友好交流の方向性を協議したり、万博の取り組みへの協力要請を行うほか、友好校児童生徒らで構成する青少年訪中団を結成し、5 年ぶりに杭州を訪問する。今後は、大阪・関西万博に向けて、市内の友好校を中心に中国への理解を深める取り組みを検討するほか、岐阜市の子どもたちや団体が、万博会場でパフォーマンスをしたり、中国の万博関係者と交流をしたり、中国文化を PR したりと、2025 年万博会場での明確なゴールを設定し、取り組みを進めたい。

## (11) 持続的に展開するための工夫

5 年後の友好都市提携 50 周年に向けて、官民間わず、草の根交流を地道に継続していく。特に、文化交流は、人と人をつなぐ手段として心に響きやすく、いつまでも心に残るため、岐阜市と杭州市の交流を継続していく上で、非常に重要な要素となる。青少年を中心とした文化交流を行うことにより、これまで培ってきた先人たちの平和と友好の思いが、脈々と後世へ受け継がれていくと考える。

## E.岐阜県恵那市

### (1) 背景と目的

#### 1) プロジェクトの背景

令和3年7月の東京2020オリンピックに向けた事前キャンプ実施を契機として始まったポーランド共和国との交流については、パヴェウ・ミレフスキ大使の度重なる恵那市への来訪、同国オリンピック委員会からの記念式典への招待及びオリンピックピクニックへ恵那市ブース出展の依頼、岐阜県と同国シロンスク県の友好協力覚書協定式への参加、同国の日本美術技術博物館マンガと恵那市の中山道広重美術館との友好協力の協定の締結の準備等すすめてきた。今回、万博開催を交流推進の機会ととらえ、同国との交流を推進し、発展させる。

#### 2) プロジェクトの目的

ポーランド共和国との文化交流を軸とした交流の推進と同国における恵那市のPR推進を目的とする。

### (2) 事業内容

#### ① 日本美術技術博物館関係者の招聘と交流

ポーランド共和国における万博に関するオーガナイザー的、コンサルの立場で関わり、同国の万博関係者である日本美術技術博物館の館長他を恵那市へ招聘し、ポーランド共和国パビリオンの紹介や万博との関わりの紹介や、恵那市関係者、市内中学生、中山道広重美術館等との交流を行いました。

【日程】令和6年1月28日（日）～1月31日（水） 4日間



【2024.1.28 中山道広重美術館懇談】【恵那北中学校生徒との交流】【笠置峡事前合宿地記念碑】



【2024.1.30 浮世絵刷り体験コーナー】【古田肇岐阜県知事面会】【中山道大井宿高札場の視察】

② 中山道広重美術館におけるポーランド紹介展示制作

ポーランド共和国の日本美術技術博物館と友好協力の協定を締結する予定の中山道広重美術館において、同館やポーランド共和国、また2025大阪関西万博の紹介を行う展示物を制作し、展示を行った。

【日 程】令和6年2月24日～ ※展示は3月以降も継続して行う。



③ 日本美術技術博物館と中山道広重美術館を紹介するリーフレットデータの制作

令和6年3月28日に友好協力の協定締結を予定している両館をそれぞれ紹介するとともに、日本美術技術博物館が出展する「2025大阪関西万博」への誘引を図るリーフレットデータを制作し、令和6年2月27日の「岐阜県ポーランド交流協会」設立式典で配布した。今回制作したデータは、後日印刷してパンフレットに仕上げ、中山道広重美術館ほか、岐阜県内の各所で配布するとともに、恵那市内においては小中学校児童生徒等に配布を予定している。またポーランド共和国国内においては、駐日ポーランド大使館に協力を仰ぎ、日本美術技術博物館他、各所で配布を行う。

【日 程】令和6年2月27日 岐阜県ポーランド交流協会設立式典時に配布



【設立総会の様子】

【設立記念交流会・阿部協会長挨拶】

【協会役員及びご来賓集合写真】

※集合写真は左から、服部敬岐阜県観光連盟常務理事（協会理事）、市川篤丸岐阜県国際交流センター専務理事（協会理事）、柘植芳文外務副大臣（ご来賓）、古屋圭司衆議院議員（ご来賓）、パヴェウ・ミルフスキ駐日ポーランド共和国大使（ご来賓）、阿部伸一郎恵那商工会議所会頭（協会会長）、田代久美子恵那市国際交流協会会長（協会副会長）、古田肇岐阜県知事（協会顧問）、小坂喬峰恵那市長（協会顧問）、千藤安雄恵那市議会議長（協会理事）、渡

會充晃岩村醸造株式会社代表取締役（協会理事）、水野正敏岐阜県議会議員（協会理事）、水野良則恵那市恵南商工会長（協会理事）、山川晃司十六銀行恵那支店長（協会監事）

### （3）実施に至った経緯

東京2020オリンピックにおいて、ポーランド共和国カヌーチームの事前合宿地に岐阜県恵那市の笠置峡が選ばれたことを契機に、岐阜県においては、シロンスク県と友好協力の覚書の締結に至り、恵那市においても駐日ポーランド共和国大使の度重なる訪問、同国への渡航、岐阜県ポーランド交流協会の設立、日本美術技術博物館と中山道広重美術館の協定締結協議など同国との交流が進んでいる。

このような状況の中、日本での万博開催をきっかけとして、同国との交流をより発展させるため、万博国際交流プログラムに取り組んだ。

### （4）実施スケジュール

令和5年12月15日～	ポーランド共和国の日本美術技術博物館招聘について協議開始
令和5年12月25日～	ポーランド展示、リーフレット制作協議の開始
令和6年01月28日～	関係者招聘（R6.01.31まで）
令和6年02月27日～	岐阜県ポーランド交流協会設立式典でリーフレットデータを配布
令和6年02月24日～	中山道広重美術館において、ポーランド展示

### （5）実施体制

・恵那市役所	まちづくり企画部企画課 教育委員会生涯学習課	全体総括 美術館所管部署
・財団法人中山道広重美術館		日本美術技術博物館との協定締結（予定）
・恵那市国際交流協会		恵那市の国際交流を総括 岐阜県ポーランド交流協会事務局
・岐阜県ポーランド交流協会（準備会）		交流の軸となる組織

### （6）プロジェクトの目標に対する成果

日本美術技術博物館の館長御一行を招聘し、日々交流を行ったことから、先方の岐阜県、恵那市に対する理解が高まり、今後の交流をより円滑に行える素地ができた。

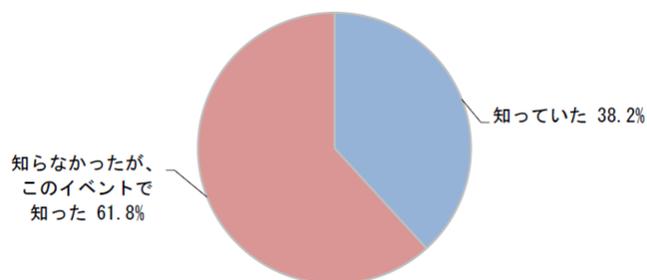
恵那北中学校生徒との交流については、直接のやり取りを行い、中学校の生徒は地域の見どころを、日本美術技術博物館館長御一行は、ポーランド共和国の町や食、また2025大阪関西万博における

ポーランド共和国パビリオンの紹介を行い、互いの理解を深めることができた。また、アンケート結果を見ても、万博の開催自体を新たに知った生徒、万博に対する興味が増した生徒が増え、また海外に対する興味も増したことで、子どもたちにとって非常に良い経験となった。

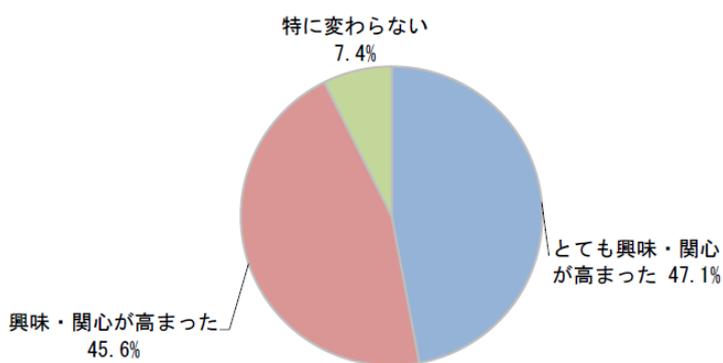
リーフレットデータの作成、ポーランド展示については、採択時期に伴い事業着手時期が遅く、様々なデータを手に入れること、デザインすることに十分な時間をとることができなかった。今後年度当初より取り組みを開始することができれば、十分な時間をとってより良いものを制作できると思う。

(参考)

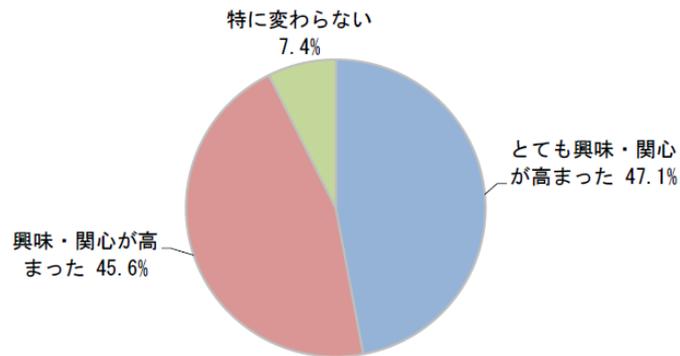
Q あなたは 2025 年大阪・関西万博が開催されることを知っていましたか



Q あなたは今回の交流会をとおして大阪・関西万博に対する興味・関心は高まりましたか。



Q あなたは今回の交流会をとおしてポーランドに対する興味・関心は高まりましたか。



## (7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

今回は、従来よりポーランド共和国との交流を進めていた恵那北中学校生徒との交流を進めたが、実際に万博が開かれる2025年度においては、市内全体の中学生を対象に万博への参加機会を作り、またポーランドパビリオンにおけるイベント等に、例えば生徒が登壇するなど、恵那市ならではの特別な機会を得られるように協議を進めていきたい。

## (8) 特に良かった点、苦労した点

### 1) 良かった点

日本美術技術博物館の方々より親密になり、非常に良い関係が構築できたことから、さまざまなレスポンスが非常に早くなった。

日本美術博物館の館長は、2025大阪関西万博ポーランドパビリオンのオーガナイザー的、コンサールの立場であり、万博開催に向けた密なコミュニケーションが期待できる。

恵那市の大井宿を描いた広重の作品があり、その場所にお連れしたところ「実際に広重題材にしたその場所を訪れたのは初めてで感動している」と本当にうれしそうにしていた。

中学校の生徒たちが臆することなく、英語で地域の魅力をプレゼンしたり、質問をしたり非常に積極的であった。またアンケート結果も「海外や万博への関心度」が上がり、数字上からも効果があった。

### 2) 苦労した点

事業採択、開始時期が遅く、調整から事業実施、事業報告までの時間が非常にタイトであった。特にリーフレットやポーランド紹介展示について苦労した。

時差が8時間あり、メールやウェブでのやり取りのため、レスポンスが遅いことがあった。

## (9) 今後の課題

財源が2分の1となりさらに特別交付税措置となったことから、予算措置説明について、より具体的な効果を示していく必要がある。

今後、岐阜県が窓口となって行う事業も計画され、県とより密な協議を行い、事業を進めていく必要がある。

市内中学生全員を万博に連れていくとなると、移動手段やチケットの手配確保等、様々な調整が必要となる。

## (10) 今後の展開内容

2024年は、日本美術技術博物館が創立30周年を迎え、恵那市も記念式典へ招待すると言われている。その際に式典への出席や学芸員の渡航、交流などを行っていく。

現在調整中で未確定ではあるが、ポーランド国立民族合唱舞踊団「シロンスク」の岐阜県公演の候補地のひとつとして恵那市がある。公演実施となれば、市内学校との交流や公演の集客などを行う必要がある。

2023年度、岐阜県ポーランド交流協会が設立され、当面は駐日ポーランド大使館との交流や日本美術技術博物館との交流などを軸に事業を展開していく予定である。

万博開催時は、市内全体の中学生を対象に万博への参加機会を作り、またポーランドパピリオンにおけるイベント等に、例えば生徒が登壇するなど、について協議していく。本件については、駐日ポーランド共和国大使館に加え、ポーランド共和国投資貿易庁大阪関西万博チームのマウゴージャタ・シュミット氏を窓口にして3月8日に予定しているWEBミーティングを皮切りに協議を重ねていく。

## (11) 持続的に展開するための工夫

岐阜県、恵那市とポーランド共和国との交流を持続し、発展させるため、岐阜県ポーランド交流協会が設立され、事務局としては恵那市国際交流協会が担う体制となった。恵那市としても協会の事業実施を積極的に支援、協力し、持続的に展開をしていく。

## F.岐阜県八百津町

### (1) 背景と目的

#### 1) プロジェクトの背景

リトアニア共和国とは、第2次世界大戦下において、リトアニアにあった日本領事館で外務省の意に反し 2,000 通以上のビザを発給し、数千人のユダヤ人難民を救った「杉原千畝」のふるさが八百津町であることがきっかけで交流を行ってきた。杉原千畝の行った人道行為は、SDGs や万博理念にも通じるものがある。万博という大きなイベントは注目度も高く、リトアニアという国を知り、理解を深める最高の機会と捉え、今後の国際交流に対する町民の関心を高めるものとする。

#### 2) プロジェクトの目的

- ① リトアニアカウナス市と岐阜県八百津町間で幼稚園・保育園の様子を撮影し、交流することでお互いの国の歴史・文化を知り、自分とは異なる文化を持った人に親しみを持てる子どもの豊かな人間性を育むこと。また、カウナス市幼稚園の保育内容を知り八百津町の保育の充実を図る。
- ② リトアニアと八百津町の小中学校の子どもたちとで 1 つの絵を完成させることで、言葉の壁や国境を越えて友情や心をつなぐ。
- ③ 学生交流に比べて遅れている住民同士の国際交流を万博を契機に加速するため、リトアニアの歴史や文化を学び、魅力を体験する。

### (2) 事業内容

- ① 保育園ビデオ交流
  - ・ ランタン制作
  - ・ ひなまつり制作
- ② ブリッジプロジェクト（小中学生の絵画交流）
- ③ やおつかジュカスの開催、2025 大阪関西万博に向けた打ち合わせ
  - ・ リトアニアの春のお祭りであるカジュカスを「やおつかジュカスマーケット」として開催
  - ・ 大使館、参画者（異文化交流サークル）交流
  - ・ 岐阜県国際交流員によるリトアニア伝統衣装講座

【日 程】令和5年12月7日（木）～令和6年3月10日（日） 94日間



【 緩衝材にリトアニアの模様をかく 】



【 ペットボトルにシールを貼る 】



【 緩衝材をペットボトルに巻く 】



【 ランタンを灯す 】



【 暗闇で灯し、観察 】



【 ランタン完成品 】



【 折り紙で体を作る 】



【 画用紙で顔を作る 】



【 顔と体を貼り合わせる 】



【 周りの飾り付け 】



【 ひなまつり制作完成品 1 】



【 ひなまつり制作完成品 2 】



【 ブリッジプロジェクト 1 】



【 ブリッジプロジェクト 2 】



【 ブリッジプロジェクト 3 】



【 ブリッジプロジェクト 4 】



【岐阜県国際交流員による伝統衣装講座】



【駐日リトアニア共和国大使館訪問】



【リトアニア共和国について学ぶ】



【リトアニアの食文化を体験する1】



【リトアニアの食文化を体験する2】



### (3) 実施に至った経緯

- ① リトアニアカウナス市から幼稚園の先生方が来日した際に、保育園を訪問し八百津町の保育園運営や園の様子を見学された。今後も何か交流を続けられないかという思いの下、両国でそれぞれ内容を考え、ビデオ交流を実施することになった。
- ② 百津町とリトアニアで交流できる企画について協議したところ、NPO 法人 GOFAR BANK がブリッジプロジェクトという企画を実施していることを知った。1 つの絵を両国の子ども全員で完成させるという交流内容が今回の検討企画に適していると考え参加することとした。
- ③ カジュカスとは、リトアニアで毎年 3 月、春の訪れと共に開催されるリトアニア最大・最古の伝統工芸市。2020 年コロナウイルスのパンデミックにより双方への行き来ができなくなり、国内で何かできることはないか検討し始めた文化交流企画。以来、毎年開催し、町民に浸透しつつあるこのイベントを活かし、万博を通じてさらに国際交流事業を活発化するため、大使館にご協力いただき、リトアニアから 3 名のアーティストをゲストにお迎えした。

### (4) 実施スケジュール

#### ① 保育園ビデオ交流

令和 6 年 1 月 15 日	和知保育園 (ランタン制作)
令和 6 年 1 月 18 日	錦津保育園 (ランタン制作)
令和 6 年 1 月 18 日	八百津保育園 (ランタン制作)
令和 6 年 1 月 22 日	久田見保育園 (ランタン制作)
令和 6 年 2 月 2 日	ランタン制作ビデオ送付
令和 6 年 2 月 20 日	和知保育園 (ひなまつり制作)
令和 6 年 2 月 20 日	久田見保育園 (ひなまつり制作)
令和 6 年 2 月 21 日	八百津保育園 (ひなまつり制作)
令和 6 年 2 月 22 日	錦津保育園 (ひなまつり制作)
令和 6 年 2 月 29 日	ひなまつりビデオ送付

#### ② ブリッジプロジェクト

令和 5 年 12 月 8 日	絵の制作終了及び教育委員会取りまとめ
令和 5 年 12 月 21 日	八百津町から NPO 法人 GOFAR BANK へ送付
令和 6 年 1 月 9 日	NPO 法人 GOFAR BANK からリトアニアへ絵を送付
令和 6 年 5 月 8 日	カウナス市の「ジャパンウィーク」にて展示 (予定)

#### ③ やおつかジュカスマーケット開催

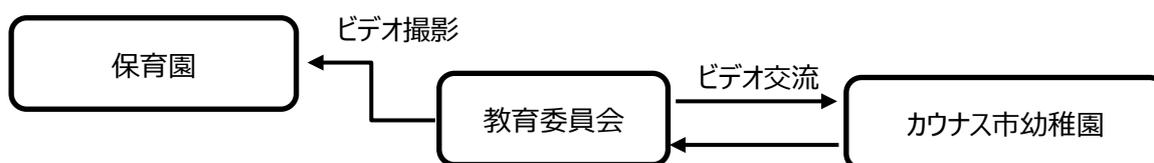
令和 6 年 1 月 31 日	岐阜県国際交流員によるリトアニア伝統衣装講座 (web 会議にて)
-----------------	-----------------------------------

令和6年2月15日 異文化交流サークルと駐日リトアニア共和国大使館との交流、  
開催に向けての意見交換、協力内容の確認、  
2025 大阪関西万博打ち合わせ

令和6年3月9～10日 やおつかジュカスマーケット開催

## (5) 実施体制

### ① 保育園ビデオ交流



#### 保育園

- ・活動主体（ランタン制作・ひなまつり制作）

#### 教育委員会

- ・ビデオ撮影・編集
- ・交流窓口

#### カウナス市幼稚園

- ・交流相手

### ② ブリッジプロジェクト



#### 八百津町内の小中学校

- ・絵の制作・回収・送付

#### 教育委員会

- ・絵の取りまとめ
- ・交流窓口

**NPO法人 GOFAR BANK**（アートを通じて世界の子どもたちの心をつなぐプロジェクト「描くよろこびは国境を越えて」を中心に様々な国で活動をしている団体。その活動の一つである「描くよろこびは国

境を越えてinリトアニア」ブリッジプロジェクトを主催)

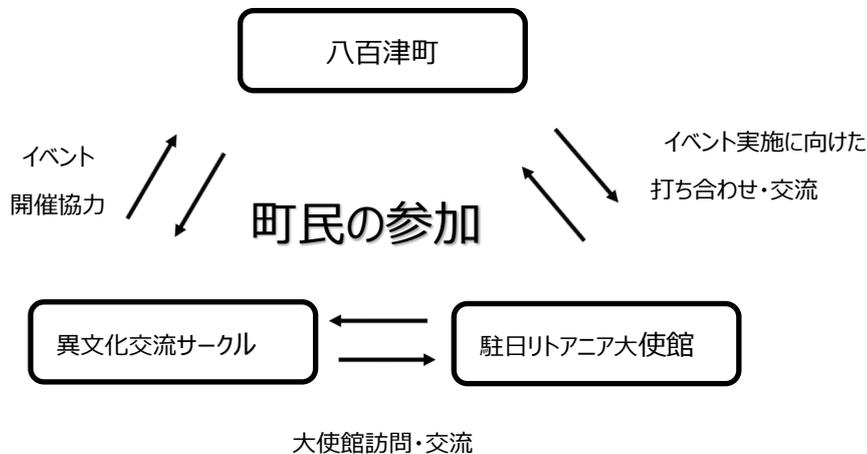
・日本国内の橋の半分を描いた絵をとりまとめ、リトアニアへ絵を郵送。残りの半分はリトアニアで描いてもらう。R6.5カウナス市において行われる「ジャパンウィーク」に展示される予定。

・八百津町とリトアニアをつなぐ窓口

### リトアニア

・交流相手 カウナス・ユルギス・ドブケビチュス学校（八百津町内の中学校と交流活動を行っている学校）

### ③ やおつかジュカスマーケット開催



### 駐日リトアニア共和国大使館

- ・異文化交流サークルとの文化歴史交流
- ・やおつかジュカスマーケット開催協力

**異文化交流サークル**（本町を訪れる外国人に日本文化を伝えるおもてなし活動をするサークル）

- ・駐日リトアニア大使館との交流
- ・リトアニア伝統衣装制作、岐阜県国際交流員によるリトアニア伝統衣装講座
- ・やおつかジュカスマーケット開催協力

### 八百津町

- ・やおつかジュカスマーケット開催
- ・大使館打ち合わせ（カジュカスに向けた打ち合わせ、万博に向けた打ち合わせ）

## (6) プロジェクトの目標に対する成果

### ① 保育園ビデオ交流

カウナス市幼稚園から送られたランタン作成ビデオの昔話の内容を見て覚え、当時の人物や歴史

に思いを馳せながら作成することでリトアニアの歴史・文化を学び実践することができ、よりリトアニアという国を身近に感じられるようになった。大人になるにつれ、言葉が通じないから分からない、失敗したくないと殻にこもってしまいがちだが、楽しそう、自分たちもやってみたいなど子どもならではのまっすぐな気持ちを引き出すことができた。

カウナス市幼稚園側でも日本固有の文化に興味を持ち、八百津町が作成したビデオに対して作り方などの質問があった。ビデオを送りあうだけでなく、内容に関連した質疑応答の中で異文化についてさらに理解を深めることができた。

## ② ブリッジプロジェクト

国境を越えて同じテーマで1つの絵を描くことで、子どもたちは言葉が通じない異文化の人でも描くよこびを分かち合えるということを学んだ。

## ③ やおつかジュカスマーケット開催

やおつかジュカスマーケットでは、駐日リトアニア共和国大使館文化担当官、大使館のインターン生から、美しい街並みや多くの世界遺産を紹介していただき、文化や歴史を学んだ。また、リトアニア本国から考古学的琥珀のジュエリー作家、伝統ベルト織り作家、リトアニアは歌と踊りが有名で祭典もあることから、ズーキヤ地方の方言による歌い手の3人を本町にお招きし、リトアニアの伝統文化を直接町民の方が触れることができた。

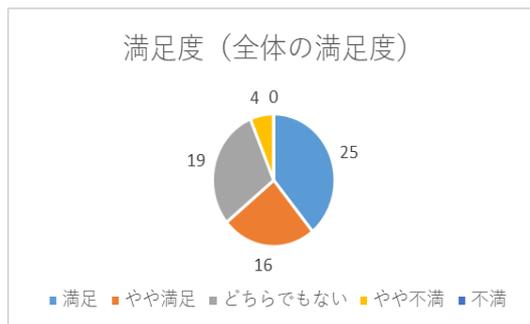
駐日リトアニア大使は、やおつかジュカスマーケットのプレゼンテーションの中で、2025 大阪関西万博のサブテーマ「いのちを救う」「いのちをつなぐ」は、本町とリトアニアの共通している杉原千畝氏と密接な関係のあるテーマだと確信している。2025 大阪関西万博でも協力できればと思っていると述べられた。リトアニア・ラトビア館については、リトアニア本国で準備が進められており、具体的な共同イベントの計画は取り付けられなかったが、引き続き協力を依頼していく。イベント当日の天候は、3月にしては、気温が低く、来場者が予定人数程度となった。（やおつかジュカスマーケット来場者 330 人、町内事業者・参加団体 20 団体）

異文化交流サークルのメンバーは、日本の伝統衣装である着物で大使館訪問。やおつかジュカスマーケットの打ち合わせや大使夫人が手作りされたリトアニアのスナックの試食、食文化についても学んだ。また、インターンシップ生からリトアニア共和国の歴史や文化を学び意見交換をした。リトアニアと日本の風習や伝統文化の違い、歴史を学ぶことができた。（参加者 7 名 サークルメンバー 6 名、異文化交流アドバイザー（会計年度任用職員 1 名））

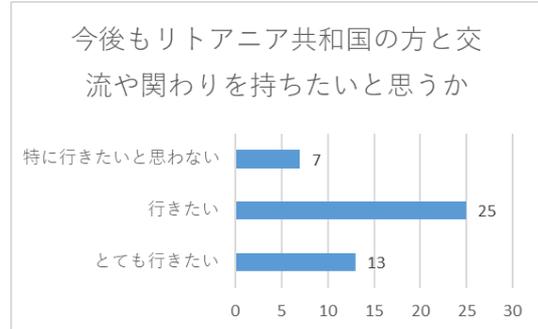
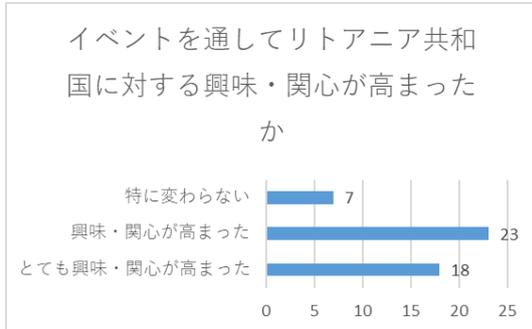
## ④ アンケート結果

### ・ やおつかジュカスマーケット参加者

参加者の 64%が満足、やや満足と回答。また、約 85%が交流相手国に対する興味・関心が高まった。今後も交流や関わりを持ちたいと回答。



リトアニアの文化や音楽を身近に感じることが  
できる機会となった成果だと考える。



- 大使館交流参加者  
参加者は、全員が満足、やや満足と回答。また、今後もリトアニアとの交流に行きたい、とても行きたいという設問では、機会があれば交流を続たいという意見が多かった。



## (7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

### ① 保育園ビデオ交流

制作したビデオは町が取り組んだ全国的にも少ない保育園間海外交流の記録として残す。また今年度だけでなく、継続的にカウナス市幼稚園との交流を企画し、保育園の子どもたちに海外の文化を知る機会を設けたい。

### ② ブリッジプロジェクト

異文化の人とも絵を使って自由にコミュニケーションが取れるということを知っている、広い視野を持った子ども。異国の美的感覚や創造性を知り、吸収する機会を設ける。

### ③ やおつかジュカスマーケット

異文化交流サークルは、リトアニアから派遣されている岐阜県国際交流員からリトアニア伝統衣装講座を受講し、日本の伝統衣装との違いを学んだ。講座を受講後、リトアニアの伝統衣装を制作。町民に向けて衣装展示や試着体験を実施したことは、一過性ではない継続可能な交流である。

## (8) 特に良かった点、苦労した点

### 1) 良かった点

#### ① 保育園ビデオ交流

カウナス市幼稚園との交流を通して、異文化に対する理解が深まった。

カウナス市幼稚園から送られてきたランタン作成ビデオを見て、「これはリトアニアの伝統的な模様で、本物のろうそくを使って火をつけるんだよ」と教えてくれたり、日常生活でも黄・緑・赤色の組み合わせを見つけると「リトアニアの国旗と同じ色だね」と自身が勉強して吸収したことを教えてくれたりや自然とリトアニアを日常生活の中で身近に感じることができるようになった。

今回の交流を通して子どもたちが世界や異文化に対する興味を持ち、人との違いについて考えるきっかけとなる貴重な経験になったと考えている。

#### ②ブリッジプロジェクト

国境を越えて同じテーマで1つの絵を描くことで、子どもたちは言葉が通じない異文化の人でも描くよるこびを分かち合えるということを学んだ。

#### ③ やおつカジカスマーケット

カジカスの歴史は古く、400年以上前、リトアニアの首都ビリニウスで始まった春のお祭りで、手作りの日用品や民芸品、食品を売る市としてリトアニア国内に広まったと言われている。そのカジカスマーケットを本町で再現し、町内産の野菜やはちみつ、お茶やハンドメイドの古布を使った雑貨、布ぞうり等を販売する店舗やワークショップが出店。来場した町民の皆さんにカジカスを楽しんでいただくことができた。また、リトアニアからのゲストや大使館関係者にもご覧いただき、カジカスマーケットの開催方法についてもご意見をいただくことができた。

リトアニアの伝統衣装試着体験では、異文化交流サークルが手作りした本格的な伝統衣装を子どもたちが試着し文化の違いを訪れた子どもたちも体験できた。

### 2) 苦労した点

#### ① 保育園ビデオ交流

年齢に応じて制作工程を変える必要があった。

リトアニアのランタンを再現するにあたり火を使う必要があったが、安全性を考慮し火を使わずに同等の効果が得られる代替品を選定する必要があった。

#### ②ブリッジプロジェクト

関係者が多い企画のため、八百津町が担当する箇所とリトアニアが担当する箇所について全関係者が認識を合わせて制作する必要があった。

### ③ やおつかジユカスマーケット

招へいしたアーティストの旅行行程の調整に時間がかかった。

今後の事業展開を検討するためにやおつかジユカスコンサートで来場者アンケートを実施したが回収率が低かった。二次元コードを利用したアンケートも回答率が低かった。

多くの人が万博とは何かという理解が曖昧な中、本イベントと関連付けて説明することが難しかった。

## (9) 今後の課題

12月～2月末までの3カ月間に3回ビデオ撮影、ビデオ制作を行った結果、スケジュールがタイトになりビデオ1つ1つに対して十分に交流する時間を設けることができなかった。来年度はあらかじめ交流計画を立て、計画に従って交流することでお互いにより内容を深掘りしたビデオが作成する。加えて1つのビデオについて分析し、異文化を理解する時間を多く取る。

今回は町内の全世帯にチラシを配布しイベントを告知した。次回は、SNSを活用し、町民だけでなく、近隣市町村からの来場による交流人口の増を目指す。開催会場を建物の2階にしたため、外からイベントを開催していることが分かりづらく、ふらりと立ち寄る人が少ないほか、高齢者からは、1階を中心とした場所での開催を望まれる意見が多かった。

万博開催期間中の参加国のナショナルデーにおける共同のイベント等については、引き続きどのような方法で実施できるのか大使館に協力を依頼しながら検討する。

アンケート結果を真摯に受け止め、地域の人々の意見や要望をしっかりと取り入れ、町民ひとりひとりが万博を身近に感じよりイメージが持てるような事業を展開することが必要である。

## (10) 今後の展開内容

今後の課題を踏まえ、万博に向けて一層相手国との交流が活発となるよう町民の意見や要望を取り入れながら事業を実施する。

### 【2024年度】

- 保育園では年に3回ビデオ交流事業実施

第1回：春 伝承遊び

第2回：夏 七夕制作

第3回：秋・冬 凧揚げ

- リトアニアカウナス市の年に1度の恒例行事である「ジャパンデイズ・イン・カウナス・ウ」に町長、議長が参加。書道家をリトアニアに派遣し「書道パフォーマンス」を披露し、日本の文化や魅力を紹介。

- コロナ禍で交流が中断していた中学生のリトアニア派遣を再開。現地の学校を訪問し交流する。

- リトアニアNOWin 八百津

リトアニアの大学生約40人を本国から招へいし、歌や踊りのコンサートを開催

- やおつかジュカスマーケット開催  
リトアニアの文化、歴史の紹介や体験交流
- 2025 年大阪関西万博会場内で実施する事業について検討。
- 

【2025 年度】

- 2025 年大阪関西万博会場内で、今まで実施した町民や学校の交流成果について紹介（予定）
- 保育園ビデオ交流事業実施
- リトアニアで開催される「ジャパンデイズ・イン・カウナス・ワ」に参加。本町の魅力を紹介（予定）。
- 中学生のリトアニア派遣。現地の学校を訪問し交流する。
- リトアニア NOWin 八百津  
リトアニア本国からアーティストを招へいしコンサートを開催
- やおつかジュカスマーケット開催  
リトアニアの文化、歴史の紹介や体験交流

（11）持続的に展開するための工夫

年度終わりに八百津町が作成したビデオの感想や次回に向けて知りたいこと・要望を聞き、来年度の計画に反映することでカウナス市の幼稚園にとっても満足できる事業となるように常に改善していく。

- イベント等事業終了ごとに町民の満足度アンケートを実施。PDCA サイクルにより改善を行う。
- 2025 年に大阪・関西万博が開催されるため、八百津町としても積極的に交流に努めることで、町民の関心を高める機会につなげてまいりたい。

## G.兵庫県三木市

### (1) 背景と目的

#### 1) プロジェクトの背景

万博を契機に三木市を広く知っていただく機会をつくるため、2020 東京オリンピックでのフランス陸上チームのホストタウンという縁を紡ぎ、フランスクロミエ高校と三木高等学校の高校生同士による国際交流に加え、それぞれの持つ地域資源を掛け合わせたコラボ商品開発や、地域課題解決型の持続可能な産業交流につなげるきっかけづくりを官民協働により目指す。

#### 2) プロジェクトの目的

万博をきっかけに三木市の高校生がより広い視野で世界と関わるきっかけづくりに繋がるように、三木市の産業や文化、人に触れる機会を創出するとともに、市内産業の活性化に向け、市内事業者、フランス事業者と連携し、双方が持つ強みを掛け合わせた持続可能な交流の仕組みづくりへのチャレンジ及び、今後、海外からの交流時に三木市を PR するプランとして、1/28 のイベントと毎年開催される地域の山田錦まつりなどでの両国の食と併せた持続可能な交流を検討するため。

### (2) 事業内容

万博が開催される大阪を舞台に文化交流、モノづくり体験ワークショップを高校生とともに実施

【日 程】令和6年1月28日（日） 1日間 参加者：フランス、イギリス他 11 人、高校生 6 人



#### 【 おもてなし 和太鼓×書道パフォーマンス・文化体験 】



#### 【マイ箸づくり】

#### 【マイナイフづくり】

令和6年2月2日（金）1日間



【フランス人ソムリエ・料理人包丁製造体験ガストロノミーツアーwith兵庫県】

令和6年3月9日（土）1日間

1月28日に実施した大阪でのイベントでは、モノづくりや文化体験を実施し、参加者から食のつながりがあるとより良い交流になるのではとの意見から、毎年開催される酒米の王者山田錦で作られた日本酒のお祭り、山田錦まつりでのフランスROUGIEとのコラボによるフォアグラ×日本酒ベースのスープに地域のお野菜を入れたスープを提供。



【山田錦まつりでのフランス事業者ROUGIE×地域野菜オリジナルフォアグラスープの提供】

【以下、参考】

令和5年6月、10月、11月



【フランス事業者による文化体験】【クロミエ高校・三木高等学校交流】

令和5年11月訪仏による国際交流仲間づくり



【フランス博覧会公社,クロミエ市長,クロミエ高校校長面会,ワイナリー,クリエイター訪問】

### (3) 実施に至った経緯

2025 大阪・関西万博を見据えた会場でのイベントを想定した大阪での文化交流イメージの具現化として企画するとともに、フランス人のニーズ把握マーケットを行うため、三木市の高校生がホストとなる文化・モノづくり体験イベントを実施することにした。当然、万博には世界中の人々が訪れることから、フランス人だけでなく、他の諸外国の参加者も想定し実施することにした。

### (4) 実施スケジュール

令和5年12月～	企画の具体化準備、会場調整、参加者向けチラシ作成等
令和6年1月～	在京都フランス総領事面会、三木高等学校校長面会、フランス博覧会公社連絡
令和6年1月28日	大阪での万博プレイベント開催
令和6年2月2日	フランス人向けガストロノミーツアー実施（包丁製造体験、酒蔵訪問）
令和6年3月9日	山田錦まつりでのフランス事業者 ROUGIE との食のコラボ
※以下、参考	
令和5年4月～	フランス事業者 ROUGIE Le Cordon Bleu との連携検討開始
令和5年10月	フランスクロミエ高校三木市訪問国際交流
令和5年11月	三木市三木高等学校フランスクロミエ市訪問国際交流 フランス博覧会公社面会、クロミエ市長、クロミエ高校、ワイナリー訪問 フランス人クリエイター訪問等

### (5) 実施体制

- ・三木市総合政策部縁結び課
- ・市内事業者、団体

### (6) プロジェクトの目標に対する成果

三木市の文化や産業、人に触れるきっかけづくりが万博を通じて行う良い機会になるとアンケート結果からも得られた。また、食とのコラボにより産業交流による持続可能な関係構築に寄与する大きな一歩となった。

調査対象自治体内への波及効果、相手国への波及効果としては、万博に向け、行政が何を目的にどうするかを庁内に対し発信し、機運作りにつながるよう報告書等で情報共有を行うとともに、令和6年度予算にも産業振興部と連携した万博に向けた取組を計上した。また、フランスに対しては、今回の取

組を万博会場や交流に係る具体的な事例として都度共有を図ることで、本気度を伝え、具体化に向けて想いを伝える関係構築ができた。食を通じた産業交流により両国における販路拡大や PR に繋がると考える。

交流計画書に記載した「期待される事業の目標・効果」に対する成果としては、机上の空論ではなく、人が人と出逢い、新たな関係が生まれる国際交流の機会を行政だけでなく、市内高校生や事業者とともに、万博とその後を見据えた想いを同じに進めることができた。また、山田錦まつりでは、万博をきっかけにフランスとの交流にチャレンジしていることを知っていただき、こんなにおいしいコラボができるなんて、どこで買えるのや、万博絶対行きますという声をいただいた。

成果が出なかった、その原因の分析として、多くのフランス人とのイベントに至らなかった。原因として PR 手法がフランス京都領事館及び関西日仏学館、在日フランス人コミュニティに対し、2 週間程度の紹介期間となってしまったことが考えられる。

今回の活動の結果を踏まえて明らかとなった課題とその対応方策として、大阪でのイベントにはフランス人向けのサロンを展開する在日フランス人や、フランスにルーツを持つ方々、昨年 9 月に新しく就任した京都フランス総領事との新たな人間関係の構築が図れたことで、信頼のある口コミによる情報発信ができる仕組みの構築が図れた。また、参加していただいた大阪でフランス人のサロンを経営する方からは、「こんなに面白いイベントであればもっと多くの在日フランス人は来たと思う。」との話を頂き、告知段階での協力を頂けることになった。

## (7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

地方の一自治体が知恵を絞り、行動を起こすことで誰も想像し得なかった『三木市の誇るべき地域資源』を万博を通じて日本全国世界に対し発信することで、「様々な方に三木を知っていただき、訪れ、新たな関係が生まれる。」そんな奇跡を高校生や事業者、フランスの関係者や仲間とともに築いていきたい。さらには産業交流による両国がつながり、日本酒との新たな食文化のコラボによる文化をフランス事業者とともに創りたい。

## (8) 特に良かった点、苦労した点

### 1) 良かった点

市内高校生の協力を得て、フランス人の方々に実際に地域資源に触れていただくきっかけができ、その体験に対するまっすぐな評価を得られたことで、更なる一手が見えてきたこと。また、何よりも新たなフランス人やフランスとの関わりを持つことができたこと。山田錦まつりでは、多くの人に万博でのチャレンジやフランスとの国際交流について知っていただく機会となった。

### 2) 苦労した点

京都フランス総領事との日程調整が、就任当初ということもあり難しく、具体的な事業内容の説明が

必要であったため、参加者への告知が遅くなったこと。事業期間が短かったこともあり、予算の組み立てや事業内容の具体化に苦労したが、事務局の多大な協力のおかげで実施することができた。

## (9) 今後の課題

### 【課題】

- 取組自体の認知度向上やイベント開催に係る PR が、参加者からの課題として意見が出てきた。
- 実際の三木市への誘客に係る移動手段や体験予約等の仕組みが必要パビリオン等でのイベントの実現。
- 費用対効果に資する表現が難しく、可能であればイニシャル・ランニングに係る費用面の支援。
- 高校生同士の交流における伴走内容と地理的な距離を埋める仕組みづくり。

### 【対応策】

- 京都フランス総領事館、日仏フランス学館による PR だけでなく、万博までに日本在住の外国人とのネットワークを広げ、口コミによる PR の仕組みを構築する。
- 兵庫フィールドパビリオン事業と、近畿経済産業局地域ブランドエコシステム事業と連動した仕組みづくりに加え、日本オラクルとデジタルツインを活用した「タビマエ」「タビナカ」「タビアト」の仕組みづくりを推進中。
- フランス博覧会公社への直接的な企画提案と、やりたいことの見える化を図るためフランス国内におけるコラボイベントの実施。
- 企業版ふるさと納税や、ふるさと納税による応援による持続可能な未来づくりにチャレンジ。
- それぞれの町で開催されるイベントを通じた相互の P R の仕組みを構築する。具体的には、フランスではクロミエ高校生が三木市を P R し、三木市のお祭りでは、三木高校生がフランスの P R を行うことで持続可能な関係づくりに、産業コラボを加える仕組みをまちづくりの視点の中で実現をめざす。

## (10) 今後の展開内容

市内高校や在京都フランス総領事館との協働、日本国内フランス人、事業者との交流に加え、フランス国内におけるコラボイベントなど、机上の計画から具体的な姿を見せることで、万博開催時にフランスパビリオンでのコラボイベントの開催を通じた三木の P R 及び誘客、新商品開発など産業の持続可能な未来を創るためのチャレンジを複合的に行う。また、兵庫県フランスパリ事務所と連携した産業連携についても複合的に進めていく。

## (11) 持続的に展開するための工夫

市内高校とフランスとの交流のサポートに加え、両国の事業者同士がつながる仕組みを構築するとともに

に、インバウンド誘客に向けた様々な取り組みと連動することで持続可能な交流を目指す。また、関わる人を増やし、ビジネススペースでの産業交流にするための伴走を行うことで、万博後も持続可能な関係構築を目指す。

## H.兵庫県南あわじ市

### (1) 背景と目的

#### 1) プロジェクトの背景

淡路島は奈良時代より朝廷に食材を献上する「御食国」とされ、古くから食材の宝庫であった。なかでも、兵庫県南あわじ市は、肥沃な土壌と温暖な気候で食材が豊富な地域として知られているほか、水稲・たまねぎ・畜産の循環型農業が日本農業遺産に認定されており、南あわじ市の特産品であるたまねぎは、糖度の高さと柔らかさが特徴である。

南あわじ市の観光客は日帰りの観光客が多く、宿泊を伴う滞在型観光を推進することで観光消費額の向上を図る取組みを推進している。中でも 2025 年の大阪・関西万博は、インバウンドの誘客を促進する起爆剤となる機会と捉えており、本市において万博会場内での出展を検討していた。

2023 年 4 月、トロペア市のマクリ市長が日本有数の玉ねぎの産地である本市を訪問されたことをきっかけに、来る 2025 年大阪・関西万博に向けて、両市の共通の特産品である、玉ねぎを中心に交流や共同 P R を行っていこうということになり、2023 年 12 月にオンラインでトロペア市と観光物産交流友好都市提携協定を締結し、万博国際交流プログラムを活用し取組みを始めた。

#### 2) プロジェクトの目的

万博を機にトロペア市との交流を通して、両市の共通点である「たまねぎ」を切り口とした食や音楽の文化交流をはじめ、地域資源を生かした観光コンテンツの磨き上げと高付加価値化、インバウンド強化を図ること、また 2025 年に万博会場内外において、両市の交流と観光 P R となるような共同出展を行い、両地域のレガシーとして残すことを目指す。

### (2) 事業内容

#### ① トロペア市と万博に向けた現地調査

万博を契機に、両市の共通の特産品である「玉ねぎ」を切り口とした食や音楽等の交流を行い、万博共同出展に向けた現地調査を行った。

【日 程】令和 6 年 1 月 24 日（水）～1 月 29 日（月） 6 日間

#### (ア) ローマでの調査

JNTO、在イタリア日本国大使館、伊日財団へ訪問し、トロペア市との連携について報告。万博会場における両市の共同出展について意見交換を行った。



【 J N T Oローマ事務所 】



【 在イタリア日本国大使館 】

#### (イ) トロペア市での調査・交流

##### ・おにおんリング交流

両市玉ねぎ交流シンボルソングである『おにおんリング』の歌とダンスを通して、トロペア市の子どもたちとの交流を図った。



【 バイオリスト 益子侑 】



【 トロペア国立小学校5年生（約50人）との交流 】

##### ・料理人交流

両市のシェフが赤玉ねぎを使った料理を披露。お互いに料理の特徴や作り方を説明し合い交流を図った。



【 コンスタンティーノシェフと藤見シェフ 】



【 互いの玉ねぎ料理を披露 】

##### ・トロペア市との意見交換

マクリ市長と両市の今後の交流や万博共同出展について意見交換を行った。



## ② パソナグループと連携したイタリアンフェア交流ブース出展

淡路島を拠点とする株式会社パソナグループが主催する「淡路島イタリアンフェア 2024」（2月23日～3月3日）において、南あわじ市とトロペア市の国際交流事業をPRし、次年度以降のレガシー創出とさらなる交流事業の拡大を図った。

【日 程】令和6年2月23日（金）、3月2日（土）、3月3日（日） 3日間

### (ア) おにおんリング交流に係るPR

フェアの一環として開催される「Fantastica Italia」（パンツェッタ・ジローラモ氏とオペラ歌手藤井泰子氏による歌とトークイベント）において、南あわじ市とトロペア市との間で実施した「おにおんリング交流」に係るPRを行った。



### (イ) 玉ねぎ料理交流に係るPR

フェアの一環として開催される「Italian Market」（イタリアン雑貨やオーガニックワインの販売）において、南あわじ市・トロペア市交流PRブースを出展。両市の交流動画を放映したほか、「玉ねぎ料理交流」のPRを行うため、玉ねぎを使ったサンプル料理の試食を実施した。



### (3) 実施に至った経緯

両市で万博会場での出展を目指すにあたり、日本国際博覧会協会関係者等からの聞き取りにより、イタリアと共同した催事の出展を行いたい場合は、イタリア政府の万博窓口に働きかけることが必要との助言があった。このため、在イタリア日本国大使館をはじめ、各関係機関へ両市の協定締結報告と万博への取組みについて意見交換の場を設けることとなった。

また、万博会場内外にて、どのような交流や催事が実施できるかを調査するため、交流の核となる食（料理人交流）や音楽（玉ねぎソング）の関係者に同行を依頼し、現地調査を行うこととなった。

### (4) 実施スケジュール

令和5年10月上旬～	交流内容の検討開始
令和5年11月上旬～	万博国際交流プログラム・モデル事業採択、渡航時期の検討
令和5年11月下旬～	渡航準備、現地交流内容の検討
令和5年12月5日	観光物産交流友好都市提携協定を締結
令和6年01月24日～	トロペア市訪問・交流
令和6年2月23日	淡路島イタリアンフェアへ出展（おにおんリング交流に係るP令和）
令和6年3月2日・3日	淡路島イタリアンフェアへ出展（玉ねぎ料理交流に係るPR）

### (5) 実施体制

- ・南あわじ市 産業建設部 商工観光課 万博・観光戦略室（実施主体）
- ・株式会社 Setouchi Seawind（在日本コーディネーター）
- ・Placidinternational（在イタリアコーディネーター）
- ・株式会社うずのくに南あわじ（料理交流企画）
- ・株式会社生島企画室（音楽交流企画）
- ・株式会社パソナグループ（淡路島イタリアンフェア2024との連携）

### (6) プロジェクトの目標に対する成果

万博共同出展に向けて、イタリア関係機関への訪問と意見交換を行った結果、具体的なアプローチ先が明らかとなったことは大きな成果。万博でのナショナルデー等の催事関係はイタリア政府が取りまとめ、イタリア館のイベント等は伊日財団が取りまとめていることが分かったので、今後はそれぞれに対してイベントの企画提案等を行い、調整を進めていく。

トロペア市の子どもたち約50人、保護者約30人に参加いただいたことで、南あわじ市の玉ねぎを広

く周知できた。また淡路島のイタリアンフェア来場者では約 400 人にトロペアの赤たまねぎと淡路島たまねぎの試食の機会を提供したことで広く周知に繋がった。

## (7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博会場内での共同出展は、取組み開始当初からの両首長の強い思いであったため、淡路島たまねぎとトロペアの赤たまねぎのPRに合わせて、地域の魅力を周知し、誘客に繋げることは来年度も継続して取り組みを行いたい。

## (8) 特に良かった点、苦労した点

### 1) 良かった点

トロペア市に知見のある在日本コーディネーターと、在イタリアコーディネーターと連携を取りながら実施したことで、有意義な調査内容や交流内容にすることができ、両地域における関係者間で繋がりができたこと。

今後の交流に向けて、関係機関と情報交換できたこと。

### 2) 苦労した点

計画から実施までの期間が短く、各種調整が直前までかかったこと。またイタリア側とは時差が大きいため、リアルタイムでの事前打ち合わせが難しく、メールでのやり取りの中で意思疎通が上手くいかなかったこと。

万博へ共同出展をするための、具体的な進め方や問合せ先が分からず、日本の関係機関に問い合わせても判明しなかったため、相手国から調べてもらう必要があったこと。

## (9) 今後の課題

プロジェクトを展開するにあたり、両市ともに潤沢な予算が充てられるわけでは無いので、交流にかかる予算の確保を、自治体だけではなく、国等の補助金の活用や民間と連携した事業内容を検討する必要がある。

## (10) 今後の展開内容

2025 年の大阪・関西万博に向けて、今年度繋がりができた関係機関に対して、両市の共同出展の可能性を引き続き調査を行い、具体的な交流内容を検討する。

## (11) 持続的に展開するための工夫

両市ともに潤沢な予算があるわけでは無いので、今後は民間との連携を強化し、交流事業への支援を募ることが必要となる。交流事業の実施について、地域・市民へ普及啓発を行い、継続的に機運醸成を図ること。

## I. 奈良県

### (1) 背景と目的

#### 1) プロジェクトの背景

2021年12月24日、奈良県とウズベキスタン・サマルカンド州が友好提携を締結した。しかしながらコロナ禍の影響により、友好提携締結後の両県州関係者による相互往来が実現しておらず、友好提携の分野として示された「文化、観光、体育、研究と教育、人材育成などの分野」に関する積極的な交流を具現化するための担当者による実務者協議も実現していない。

2023年度にコロナ禍の一定の収束が見られたことから、7月に駐日ウズベキスタン共和国大使館主催によるイベントを奈良市内で開催し、イベントに合わせて来県した駐日ウズベキスタン共和国大使と奈良県知事との会談において、両県州間の交流を深化させることで合意した。また、駐日ウズベキスタン共和国大使より、近日中に関係者間でオンライン会談を実施したい旨、提案があった。

2023年10月13日、サマルカンド州知事、駐日ウズベキスタン共和国大使、奈良県知事の三者によるオンライン会談を実施。このオンライン会談では2025年万博開催を契機に両県州の交流をさらに活性化させることについて三者間で合意。また、2023年から2025年までの三カ年に両県州間で交流を進めることについても合意を得た。

#### 2) プロジェクトの目的

友好提携に基づく両県州間の交流を活性化するための計画策定を目指すため、本プロジェクトに基づく実務者協議を実施。2024年度及び万博開催年である2025年度における具体的な交流計画について両県州間の合意を得る。

本プロジェクトの実施により、友好提携にかかる協定書にも掲げられている「文化、観光、体育、研究と教育、人材育成などの分野」についての個別・具体的な交流の実現を目指す。

また、他の友好提携地方政府では実績がある青年派遣事業について、サマルカンド州でも実施するため、交流先となるサマルカンド州内の大学をはじめとする関係機関を訪問し、派遣に向けた調整を行う。あわせて、本プロジェクトを通じ、サマルカンド州の学校における日本語教育やオンライン環境について調査することで、万博開催を契機として両県州に在住することもが相互の文化等を理解する「こども交流」の実現につなげていく。万博の開催により、国際的にも奈良の存在感をアピールする良い機会となることから、本来奈良が持っている国際性や歴史性を意識して交流に努めることで奈良の発展にもつなげたい。

## (2) 事業内容

### ① 実務者協議の実施（実施場所：ウズベキスタン・サマルカンド州）

2025 年の万博開催を契機とした両県州の交流の更なる活性化に向けた計画策定を目指し、実務者協議を実施（各訪問先での実務者協議結果については、精算報告書とともに提出済）。

【日 程】令和 6 年 1 月 28 日（日）～2 月 2 日（金） 4 泊 6 日

#### (ア) JICA ウズベキスタン事務所（奈良県青年団の派遣に向けた打合せ）

日時：1 月 29 日（月） 9:40～10:40

相手方：三島次長ほか



#### (イ) 在ウズベキスタン日本国大使館（知事訪問団、奈良県青年団の派遣に向けた打合せ）

日時：1 月 29 日（月） 11:15～12:30

相手方：羽鳥大使ほか

※セキュリティの都合上、打合せ時の写真撮影許可が下りなかった。

#### (ウ) ウズベキスタン文化財団（大阪・関西万博におけるウズベキスタンパビリオンでのイベント参画に向けた打合せ）

日時：1 月 29 日（月） 14:30～15:15

相手方：Azizbek Mannopov 課長ほか



(エ) サマルカンド州政府（知事訪問団、奈良県青年団の派遣に向けた打合せ）

日時：1月30日（火）11:00～11:50

相手方：Ochilov Xurshid 副知事ほか



(オ) サマルカンド国立外国語大学（奈良県青年団の派遣に向けた打合せ）

日時：1月31日（水）10:30～12:00

相手方：Ruzikulov Fazliddin 学長ほか



(カ) 第8学校（県内中学生との交流に向けた打合せ）

日時：1月31日（水）14:15～15:15

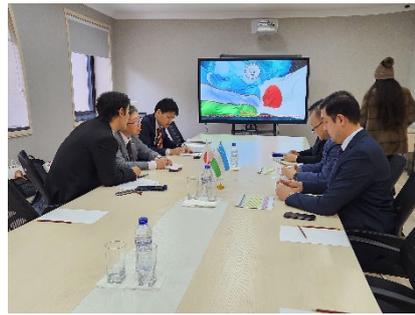
相手方：学校長ほか



(キ) シルクロード国際観光文化大学（奈良県青年団の派遣に向けた打合せ）

日時：2月1日（木）10:00～11:00

相手方：Juliboy ELTAZAROV 第1副学長ほか



## ② 奈良県立国際中学校での駐日ウズベキスタン共和国大使館職員による出張授業の実施

【日 程】令和 6 年 2 月 6 日（火） 11：35～12：20

場所：奈良県立国際中学校 プレゼンテーションルーム（奈良市二名町 1 9 4 4 - 1 2）

講師：ファヒリディン・エルガシエフ氏（駐日ウズベキスタン共和国大使館 二等書記官）

内容：講義「シルクロードの宝石・ウズベキスタンを知ろう!」、質疑応答

参加人数：61名（全員が中学1年生）



## (3) 実施に至った経緯

2021 年に奈良県とウズベキスタン・サマルカンド州で友好提携を締結したがコロナ禍の影響により、両県州関係者による相互往来が実現しておらず、友好提携の分野として示された「文化、観光、体育、研究と教育、人材育成などの分野」に関する積極的な交流を具現化するための担当者による実務者協議も実現していなかった。

2023 年度になり、コロナ禍が収束を見せたため、実務者協議開催の時期を駐日ウズベキスタン共和国大使館の協力を得て検討を進めていたところ、「1 プロジェクトの背景」記載の三者によるオンライン会談を経て、万博開催を契機とした 2023 年度から 2025 年度までの実施についての両県州で合意が

得られたことにより、本プロジェクトに基づく実務者協議を実施。

あわせて、両県州の「こども交流」の実施・実現という観点から、県立国際中学校及び駐日ウズベキスタン共和国大使館に出張授業の開催を打診したところ快諾いただいたことにより、2024年2月に出張授業が実現した。

#### (4) 実施スケジュール

今年度事業（2023年12月～2024年2月）

2024.1.28 - 2.2 実務者協議（ウズベキスタン共和国訪問）

- ・事前準備・調整：2023年12月～2024年1月26日
- ・次年度事業実施に向けた調整：2024年2月～

2024.2.6 出張授業

- ・事前準備・調整：2023年12月～2024年2月5日
- ・県立国際中学校での事前研究に関する授業：2024年2月2日
- ・次年度事業実施に向けた調整：2024年2月～

#### (5) 実施体制

- ・奈良県（知事公室国際課）：事業実施主体
- ・サマルカンド州：交流先（友好提携先地方政府）
- ・駐日ウズベキスタン共和国大使館：両県州間のコーディネーター

#### (6) プロジェクトの目標に対する成果

##### 【実務者協議の実施について】

本プロジェクトの実施により、ウズベキスタン・サマルカンド州政府等を奈良県職員として初めて訪問し、実務者協議を実施したことにより、友好提携締結後、長らくの懸念材料として掲げられていたウズベキスタン・サマルカンド州を訪問できていなかった点も解消され、両県州間のさらなる交流の活性化に向けたきっかけを作ることができた。

今回の実務者協議で、2024年度及び万博開催年度である2025年度までの両県州の交流計画について合意を図ることができたことにより、今後、両県州知事の相互往来や両県州間における個別・具体的な交流の実現に向けた道筋をつけることができた。

奈良県青年団の派遣についても、2024年9月の2週目から3週目を軸に、派遣することで関係機関と合意を得ることができた。

また、日本語教育を実施しているサマルカンド州内の学校（日本の小・中学校に相当）を訪問し、オ

オンラインでの交流実績も確認できたことから、次年度よりオンラインも活用しながら本格的な交流を進めていくことになった。

#### 【出張授業の実施について】

出張授業に参加した県立国際中学校の1年生（61名）全員にアンケートを実施したところ、今回の出張授業について「とても満足」または「満足」と回答した生徒が98.4%と、非常に高い満足度を得ることができた。

また、万博に関する認知度についても、2025年に開催されることを「知っていた」と回答した生徒が88.5%いたほか、万博会場にウズベキスタンのブースが設置された場合に、万博会場に「とても行きたい」または「行きたい」と回答した生徒が90.1%にものぼり、万博に対して高い関心・期待が寄せられていることがわかった。

このことから、今回の出張授業を通じてウズベキスタンへの理解を深める機会となっただけでなく、万博に向けてこれからの未来を担う子どもたちの機運を高めることができた。

さらに、今回のアンケートでは、今後もウズベキスタン出身の人との交流や関わりを「とても持ちたい」または「持ちたい」と回答した生徒が95.1%にものぼり、具体的に現地の中学生とお互いの文化を紹介する交流をしたいとの声も多数あったことから、次年度以降の「こども交流」の実現に向け、そうした声も反映させながら交流内容を検討していきたい。

### （7）大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

#### ① 知事訪問により創出されるレガシー

2024年度に予定する奈良県知事のサマルカンド州訪問、州知事との会談が実現することにより、2025年度の万博開催期間中に訪日、奈良県訪問を州知事に直接伝えることで、2025年度に予定する訪日につなげる。

2025年度に万博開催を契機に州知事に訪日、奈良県を訪問していただくことで、当初の目標として掲げていた両県州知事の相互往来が実現。

2026年度以降も両県州知事の相互往来を継続させることにより、前年度までに実施予定の青少年交流や万博での交流に加え、文化、観光、体育、研究と教育、人材育成といった他の友好提携分野の交流の深化に繋げる。

#### ② 奈良県青年団の派遣により創出されるレガシー

他の友好提携地方政府では実績がある青年派遣事業について、友好提携後初めてサマルカンド州でも実施することにより、今後、同州へ青年を派遣する際のモデルケースとなるほか、現地青年たちと奈良県青年がSNSなどを通じて繋がり合える関係を築くことで、一過性に終わる関係性ではなく、継続性のある関係性を築く。

また、現地での同世代との交流や現地で国際交流の最前線で活躍する人々からお話を伺うことにより、

国際的感覚を養うとともに、文化や宗教面で普段慣れ親しんでいないウズベキスタンの生活様式や文化を肌で感じてもらい、帰国後も両国の架け橋として自身の経験を活かした活動に取り組んでもらうことで、多文化共生社会の実現に繋げる。

さらに、奈良県青年団の派遣を契機に、ウズベキスタンからの留学生を県内大学で受け入れ、将来的には両国青年がお互いの国で就労や国際貢献等を通じて活躍する人材を輩出する。

### ③ 中学生同士のこども交流により創出されるレガシー

今回の事業実施により、次年度より本格的な交流を進めていくことになった奈良県在住の中学生（県立国際中学校の中学生を想定）とサマルカンド州在住の中学生（第8学校の生徒を想定）について、2024年度はオンライン交流を実施予定。

2025年度については、万博開催を契機として、前年度のオンライン交流に参加いただいた生徒複数名にサマルカンド州から訪日いただいたうえで、万博会場及び奈良県を訪問してもらう予定。

2026年度以降もオンライン交流を継続することはもちろんのこと、学校行事等に合わせる形で定期的に相互往来を行うなど積極的な交流を継続するほか、県立国際中学校の他の学年や県内にある他の学校でも交流を展開する。

将来の友好交流を担う青少年たちが積極的に国際交流に携わり、若いうちから国際交流や異文化理解に興味・関心を持ってもらうことで、県内でも国籍や宗教に関係なく、誰もが「いのちを知る・いのちを響き合わせる」ことができる多文化共生社会の実現に繋げる。

## （8）特に良かった点、苦労した点

### 1) 良かった点

駐日ウズベキスタン共和国大使館に奈良県とサマルカンド州間のコーディネイト役を務めていただき、両県州間の連絡調整役を担っていただいたことで、実務者協議の行程の確定、協議事項の事前報告がスムーズに進んだ。とりわけ、言語面での不安材料が解消されたことが非常に有益だった。

他の項目でも記載しているが、本県における長年の懸念事項であった、友好提携を締結したものの長引くコロナ禍の影響により、ウズベキスタン・サマルカンド州を訪問できていなかったことが解消され、今後の両県州間における個別・具体的な交流の実現に向けた道筋をつけることができた。

### 2) 苦労した点

実務者協議の実施に向けた調整について、日程は令和5年11月半ばには確定していたものの、州政府や大学等の具体的な訪問日については、サマルカンド州より約1ヶ月前でなければ調整できないと伝えられたことにより、行程が出発直前まで確定しなかった。

特に万博関係者との協議については、出発前日に実施が確定し、場所と時間については、ウズベキスタン到着後に確定するなど、協議が実現するか不確定なまま渡航せざるを得なかった面があったことが不安材料として残った。

実務者協議の実施が決まった令和 5 年 11 月より、コーディネーターである大使館には、両県州間の連絡調整を依頼しており、当初から州政府や万博関係部署と時期や行程についての調整をメールや電話で行ってもらっていたが、大使館の本来業務が立て込んでいたことや州政府側がメール等を頻繁にチェックする習慣がないという事情から、調整がスムーズに進まず苦労した。

渡航 1 週間前には現地行程や実務者協議での協議事項等をあらかじめ認識共有するため、駐日ウズベキスタン共和国大使館、サマルカンド州、本県の 3 者間でオンライン会議を実施したが、オンライン会議で決定したことがサマルカンド州政府内で十分に共有されておらず、一部の行程を変更せざるを得なかった。

来年度には知事訪問団や奈良県青年団の派遣を控えており、事前に担当者間で調整したことがきちんと内部で情報共有されなければ、当初の予定どおりの交流が行えないことも予想され、不確定要素を抱えたまま派遣せざるを得ないことに不安を感じる。

現地で働く日本人スタッフによると、組織内で報連相をしたり、担当者間の引継ぎを行う風習があまりない文化と聞いており、途中で担当者の変更となった場合に、一から調整を始める可能性があることに不安を感じる。また、主にメールを通じて連絡調整を行うこととなるが、頻繁にメールチェックをする文化ではないとも聞いており、スムーズに調整ができるのか心配である。

#### 【言語面】

ウズベキスタン国内の公用語である「ウズベク語」が希少言語であることから、実務者協議用に作成した奈良県の概要等に関する資料を翻訳するにあたり、①対応可能な業者自体が少ないこと、②作業自体も少ないことから、繁忙期には依頼から納期まで 3 週間以上かかったとの回答があった。先に述べた相手方との連絡がスムーズに進まなかったことと相まって、資料の翻訳については今後も苦労することが想定される。

ウズベキスタンでは直前に調整を進めることも多いと聞いており、場合によっては訪問団の渡航直前で調整しなければならない事態も想定されるが、言語面での壁があるため電話や SNS 等を用いた調整もできず、今後も苦労することが想定される。

### (9) 今後の課題

課題については、上述の【苦労した点】が挙げられる。コーディネーターとも連絡を密にし、時点毎の達成目標を設定し、時点修正やむなしの姿勢で臨んでいくしかないと考えている。

### (10) 今後の展開内容

#### 【2024 年度に予定している事業】

##### ① 奈良県知事をはじめとする訪問団のサマルカンド州訪問

知事や県議会議員等で構成する訪問団をウズベキスタン・サマルカンド州に派遣。州知事との会談、関係機関の視察、県及び万博の P R 等、今後の具体的な交流につながる実利的な訪問とする。

実施時期：2024年10月27日～11月1日（予定）（4泊6日）

訪問場所：在ウズベキスタン大使館、サマルカンド州政府、大学等

## ② 奈良県青年団の派遣

国際交流に関心のある青年5名程度を、ウズベキスタン・サマルカンド州へ派遣し、同世代との交流や国際交流の最前線で活躍する人々からお話を伺うこと等を通じて、今後の友好交流を担う次世代の養成を図る。

また、現地滞在中には大学の宿泊施設や一般家庭へのホームステイ体験を実施し、現地を訪れなければわからない現地の生活様式や文化を肌で感じてもらうことにより、帰国後も両国の架け橋として自身の経験を活かした活動に取り組んでもらうことで、多文化共生社会の実現に繋げる。

実施時期：2024年9月2週目を予定（4泊6日）

訪問場所：在ウズベキスタン大使館、JICA、サマルカンド州政府、大学等

## ③ 奈良県及びサマルカンド州在住の中学生同士のオンライン交流を実施

両県州に在住することも（中学2年生を想定）同士のオンライン交流を学校の授業の一環として年3回程度実施し、次年度（2025年度）の訪日に向けた環境づくりを行う。

実施時期：2024年度 ※年3回程度、実施予定

実施手法：オンライン

実施内容：両県州の学校で調整予定

## ④ 在京大使館との連携による奈良県・サマルカンド州友好交流イベントを奈良県内で開催 （2025年の交流イベント開催に向け、同州からも出演者を招請予定）

## ⑤ 日本語教育に資する図書の寄贈

県内で日本語教育に資する図書の寄付を募り、在京大使館を通じて日本語教育に取り組むサマルカンド州内の学校（大学を含む）へ寄贈。

## 【2025年度に予定している事業】

### ① サマルカンド州知事の万博会場及び奈良県への訪問受入

2024年度の奈良県知事訪問時の訪日要請及び万博開催を契機とする州知事の訪問受入。

実施時期については今後調整。

### ② 2025 大阪・関西万博におけるウズベキスタンパビリオンでの奈良県・サマルカンドデーの実施等、関連イベントへの参画。

万博会場中にウズベキスタンパビリオンにおいて、奈良県・サマルカンドデーの実施等、関連イベントに両県州の子どもたちも参画する形で開催。

実施時期については今後調整。

③ サマルカンド州中学生の受け入れ

前年度に交流を実施したサマルカンド州内の中学校の生徒に訪日いただき、対面での交流を実施。実施時期については今後調整。

【2026年度以降】

① 知事訪問、奈良県青年団の派遣、国内でのイベントを実施予定

(11) 持続的に展開するための工夫

本プロジェクトに基づき実施した実務者協議により各機関における担当者（カウンターパート）を把握し、顔を合わせた対面も行えたため、言語面での不安材料はあるが、実務者協議の実施前と比べると調整がスムーズに進むと思われる。ただ、人事異動による引き継ぎがあまり無い文化とも聞いているので、担当者については定期的に把握してまいりたい。

また、担当者が交代した場合でも円滑に調整が行えるよう、担当者だけに頼るのではなく、今回の実務者協議を通じて構築することができた様々なコネクションを活かしながら、関係機関との調整を進めてまいりたい。

先方（大学等の関係機関も含む）から提案のあった項目（大学間の連携等）について、2024年度の奈良県知事訪問時に、一定の成果が得られるよう、分野毎の達成目標を掲げて庁内での進捗確認に努める。

2025年には大阪・関西万博が開催され、国際的にも奈良の存在感をアピールする良い機会となることから、本来奈良が持っている国際性や歴史性を意識して交流に努めることで、庁内の他事業とも協調したうえで奈良の発展にもつなげてまいりたい。

## J.和歌山県有田市

### (1) 背景と目的

#### 1) プロジェクトの背景

有田市においては、これまで教育分野での国際交流はオーストラリアと行ってきたが、中東地域との交流の機会や文化に触れることがなかった。ところが、ドバイ万博を契機に西洋的価値観以外の国と接することとなったので、今回の大阪・開催万博を契機として、子どもたちに多様な価値観に触れる機会を提供することで、これまでと違った価値観を得られるとともに、真の国際感覚を涵養し、ひいては地球規模の課題解決に結びつくものと考えている。

#### 2) プロジェクトの目的

2025大阪・関西万博を契機に、有和中学校とGEMS校の教育交流を進め、令和6年度に本市中学生のドバイへの派遣や、互いの課題をテーマにオンライン交流を行うことなどを盛り込んだ連携協定を締結する。令和6年度にドバイを訪問する中学生の視察先を調査する。

### (2) 事業内容

教育交流に向けたドバイ視察及びGEMS アル・バルシャ・ナショナル・スクール校との協定締結

【日 程】令和6年1月10日（水）～1月14日（日） 5日間

【目 的】①GEMS アル・バルシャ・ナショナル・スクール校との協定締結

②令和6年12月頃、本市中学生のドバイ訪問にむけた視察先調査

【出張者】望月良男有田市長、宮崎泉和歌山県教育長、梅本陽子経済建設部理事、桃井克博秘書広報課長、松村尚彦教育総務課長、中西朋子統括指導主事、奥村裕箕島中学校教頭

【訪問先】GEMS アル・バルシャ・ナショナル・スクール校、在ドバイ日本国総領事館、ワルサン廃棄物処理発電施設、ドバイ・フレーム、アル ファ ヒディ歴史地区など



【GEMS 校と協定締結】



【GEMS 校玄関で】



【在ドバイ日本国総領事館】



【ワルサン廃棄物処理発電施設】

### (3) 実施に至った経緯

令和4年3月に、ドバイ万博を市長が訪問したことをきっかけとして、在ドバイ日本国総領事館と関係性を構築できたことにより、GEMS 校との交流に繋がることとなった。

### (4) 実施スケジュール

令和5年11月08日

GEMS 校とのオンライン会議スタート

令和5年12月07日 GEMS校との第2回オンライン会議  
令和6年01月05日 GEMS校との第3回オンライン会議  
令和6年01月10日～14日 ドバイ訪問  
(在ドバイ日本国総領事館訪問、ワルサン廃棄物処理発電施設訪問、  
GEMS校訪問(協定締結)、生徒訪問先の調査)

## (5) 実施体制

- ・市内における次の関係部署で、常に情報共有、連携を図りながら、取り組みを推進。
  - 交流事業の主体(教育委員会)
  - 万博に関すること(経済建設部:受け入れる時の環境整備やインバウンド誘客を実施)
  - 国際交流に関すること(秘書広報課:国際交流担当)
- ・和歌山県(教育委員会、万博推進課)との連携を推進。
- ・GEMS校(協定締結先)
- ・在ドバイ日本国総領事館(関係機関との円滑な接続)
- ・JICE(現地コーディネーター、現地との調整、連絡等)
- ・JETRO及びH.I.Sドバイ支店(現地の情報収集)

## (6) プロジェクトの目標に対する成果

交流計画書記載事項に基づき、具体的な成果、分析結果については、①本プロジェクト実施により元々の自治体の課題(上述のプロジェクトの背景・目的に記載)の解決に本プロジェクトが寄与した点、②調査対象自治体内への波及効果、相手国への波及効果、③交流計画書に記載した「期待される事業の目標・効果」に対する成果、④成果が出なかったものについては、その原因を分析。⑤今回の活動の結果を踏まえて明らかとなった課題とその対応方策が成果として挙げられる。

今回のモデルプロジェクトの実施により、連携コーディネーターを活用し、JICEとの関係を構築することができたことで、オンライン交流及び現地での交流を円滑に進めることができ、教育交流を目的としたGEMS校との協定締結に至ることができた。

協定締結することができ、今後の継続的な交流にむけ大きな前進となった。令和6年度に本市の中学生をドバイに派遣する予定であり、多様な価値観と国際感覚を持った人材の育成に繋がるものと考えている。また、令和7年度の大阪・関西万博に併せて、ドバイの中学生の受け入れを予定しており、本市の中学生のみならず、市民等との交流を図ることで、多文化共生についての市民意識の向上に繋げることができる。さらに、今後、ドバイの万博関係者が休日を利用して、本市への誘客が促進できるよう、和歌山県と連携した取り組みを行う予定としている。

## (7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

有和中学校と GEMS 校との間で協定を締結したことで、今後、両校が協力して、①共同教育プロジェクト、②学生交流プログラム、③文化交流イベントに取り組むことが可能となり、今後も継続して交流を深めることができる。また、交流を通じて、子どもたちが多様な価値観に触れることができるとともに、国際感覚の涵養にも繋がるとともに、次世代エネルギーなどについて探求するなかで先端技術等についても学ぶ機会を得ることで、将来を担う人材の育成にも寄与するものとする。

## (8) 特に良かった点、苦労した点

### 3) 良かった点

今回のモデルプロジェクトの実施により、JICE（一般財団法人日本国際協力センター）との関係性を構築することができたことから、今後も中学生のドバイ訪問時の現地コーディネーターとして、活用したいと考えている。さらに、在ドバイ日本国総領事館との関係性をより一層深めることができた。

### 4) 苦労した点

英語でのコミュニケーションが必要になることに加え、自分たちの常識や感覚と、相手方と相違がないのかなど不安な面もあったが、JICE の連携コーディネーターの助言が心強く感じた。

GEMS 校の長期休暇期間が日本の学校と異なっており、連絡をとることが困難な時期があったので、学校のスケジュールなどを事前に把握しておくことも重要であると感じた。また、常に連絡が可能なメールアドレスなどを把握しておくことで、より円滑なコミュニケーションが図れると感じた。

## (9) 今後の課題

今後、学校間での交流が中心となることで、生徒同士の交流に加え、相互の教員間における事前の意思疎通の徹底も必要であることから、学校内での取組推進体制の強化を図る予定である。

現在は、教育委員会、経済建設部、秘書広報課で連携し、教育目的を主とした交流を行っているが、今後より広い取組みを進めるためには、組織的に取り組む必要がある。

## (10) 今後の展開内容

今後の展開内容について以下に記載する。

事業期間	関係者等との交流の内容			交流に伴い行われる取組み
	万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者 (要綱第2(1)ア)	万博参加国・地域の関係者 (要綱第2(1)イ)	万博の企画・運営等に関わる 日本側の万博関係者(要綱第2(1)ウ)	受入れなど
万博会期前	<p>@和歌山県万博推進課と協議開始</p> <p>スタッフの休日に和歌山県で文化体験を企画する等</p> <p>@和歌山県教育委員会と県との連携について意見交換開始</p> <p>県内高校生との交流内容について検討</p>	<p>GEMS 校と有和中学校との交流</p> <p>@2024年5月 自己紹介文をメール交換</p> <p>@6月～7月 有田市紹介動画を作成し送信 (文化・歴史・史跡・旧跡など、生徒がグループに分かれて動画を作成)</p> <p>@9月 GEMS 校新年度スタート</p> <p>@10月または11月 リモート交流 (お互いに学習してきたことを発表)</p> <p>12月 ドバイ訪問 GEMS 校へ有和中学生の派遣 (圏域高校との連携を検討)</p>	<p>@ENEOS と人材育成について検討開始</p> <p>@エネルギーについての探求学習の実施</p> <p>@フルサン廃棄物処理発電施設の田中氏(伊藤忠商事より出向)とリモート学習検討</p> <p>※中学生は、ジュニアEXPO2025教育プログラムで学習している。箕島高校は博覧会協会職員がお越しいただき、万博についての学習済なので、今後は万博協賛企業との関係性の構築も進めていきたい</p>	<p>@万博を機に地域経済の発展やインバウンド誘客に取り組んでいる協議会(ALLARIDA協議会)と、GEMS 校の生徒受け入れに向けて連携するための研修実施</p> <p>@ドバイの文化について理解促進事業を検討</p> <p>例: JICE(UAE事業)在ドバイ日本国総領事館職員とのオンライン交流など、市民に広く周知</p>
万博会期中	<p>@2025年万博会場 UAE アラブ首長国連邦のスタッフの休暇を利用して、和歌山県での文化や食体験に招待する</p>	<p>@2025年万博会場 UAE パビリオン及びドバイナショナルデーでの共同発表</p> <p>@GEMS 校の学生の受け入れ</p>		<p>@市内小中学校の大阪・関西万博への教育旅行の実施。できれば共同プロジェクト開催日に予定。(準備や企画、運営に携われるなら、一人でも多くの学生の参画)</p> <p>@県立高校生の参画</p>
万博会期後		<p>@交換留学プログラムの実施</p>		<p>@ドバイとの更なる親睦に向けて、他分野での交流の検討</p>

## (11) 持続的に展開するための工夫

この取り組みは、「第5次有田市長期総合計画」の2-1 学校教育⑤有和中学校の開校及び3-4 観光業の振興に位置付けている。市内4中学校を統合し、令和6年4月に開校する有和中学校は、新しい世代のために教育のイノベーションを目指している。また、令和4年度からはインバウンド誘客を促進しており、個々の違いを受け入れ、認め合い、多様性を生かすことで人やまちの成長し、「つながりが生む魅力あるまち」を目指している。

日本は成熟社会となり、人口は減少し、超高齢化の先進国となった今、いのちへの向き合い方や社会そのものの仕組みが大きく変わる転換期である。2025年に開催される大阪・関西万博は新たな命の在り方や社会のかたちを検証し提案する、二度とない機会を提供する場となる。

本市はこの機会を「まちと人の成長」とするために、未来を担う子ども達へは世界を知り将来、国際的に活躍できる人、環境に配慮したエネルギーや科学技術を活用できる人材育成に取り組んでいきたい。また、多様な価値観や文化の違いを受け入れることで、他者への共感を育み、文化を尊重しあうことによって、ともに命を守り、命を高めることができる交流の実現を目指していく。

### 第3章. 成果のとりまとめ

#### 1. 成果報告会

##### (1) 開催概要

第2章「調査対象プロジェクトの実施結果」をもとに、今年度本事業（第一弾、第二弾）に取り組んだ自治体の中から7事例を発表していただく成果報告会を開催した。成果報告会の目的は、来年度以降、国際交流を進めたいと考えている自治体に向けて、国際交流の可能性やきっかけを共有することであり、約120名の参加申込みがあった。

項目	内容
開催日時	2024年3月7日（木）14時00分～16時30分
開催形式	オンライン（発表者は会場にてプレゼンを実施）
プログラム	1. 開会挨拶・万博を契機とする国際交流の意義 2. 調査対象プロジェクト実施自治体からのご報告 3. コーディネーター 江原様からのメッセージ 4. 意見交換会（三木市縁結び課×那須塩原市） 5. 今後の展開について・閉会挨拶
登壇者	【調査対象プロジェクト実施自治体からのご報告】 ・ 栃木県須塩原市 企画部市民協働推進課 主事 宇都野淳様 ・ 兵庫県南あわじ市 商工観光課 万博・観光戦略室長 土居正典様、横野様 ・ 奈良県 知事公室 国際課 係長 山本剛様 ・ 長野県宮田村 教育委員会 こども室学校教育係長 伊東真一様 ・ 山形県村山市 教育委員会 生涯学習課 富樫京太様 ・ 北海道浦幌町 一般社団法人十勝うらほろ楽舎 代表理事 近江正隆様 ・ 有田市 教育委員会教育総務課 統括指導主事 中西朋子 ・ 有田市 経済建設部 理事 梅本陽子様 【コーディネーター】 ・ 株式会社 SETOUCHI SEAWIND クルージング顧問 江原裕子様 【意見交換会】 ・ 三木市縁結び課 清水暁彦様 ・ 那須塩原市 国際交流員 みよし・アンガ・ゆかり様

事業の成果概要として発表自治体ごとに注力した内容を端的に示したフレーズとその背景や解説を記載する。

自治体	フレーズ及び背景・解説
那須塩原市	<p><b>【フレーズ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業を進める上で重要になるのが関係者との連携である。</li> <li>・ 特に、現地のキーマンと連携すること、相手国と関係する自治体と連携することが重要。</li> <li>・ また、国際交流員に活躍の場を与えることも重要である。</li> </ul> <p><b>【背景・解説】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 那須塩原市では現地のキーマンと連携することで、相手国の市長や相手校とスムーズに繋がることできた。</li> <li>・ 現地のキーマンと連携するために国際交流員をこの取組に加えることが重要。自治体には国際交流員（国際交流活動に関する職務に充実するために配置された外国青年）が在籍していることが多いが、彼ら彼女らは非常に優秀で母国のキーマンや母国の国際交流関係機関とのネットワークを有している。</li> </ul>
南あわじ市	<p><b>【フレーズ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 両市共通の特産物をきっかけとした、国際交流を行うことにより、産業の創出と地域住民の高い関心領域にアプローチできる。</li> </ul> <p><b>【背景・解説】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 南あわじ市とトロペア市は共に玉ねぎが有名である。トロペア市では玉ねぎを使ったジャムが販売されている。</li> <li>・ しかし、南あわじ市では玉ねぎジャムが存在しない。</li> <li>・ 玉ねぎを使った商品開発の新たな発見につながる可能性がある。</li> <li>・ このように共通する特産物であっても、文化が異なるため、新たな気づきにつながった。</li> <li>・ また、南あわじ市で開催したイベントにて玉ねぎジャムの試食を配布した際には、普段から南あわじ市の玉ねぎに触れている住民にとって、</li> <li>・ 異国の玉ねぎ料理に対する関心が高かった。</li> <li>・ イベントは玉ねぎジャムの試食会であり、販売は行っていなかったが、購入したいとの意見が多数あった。</li> </ul>

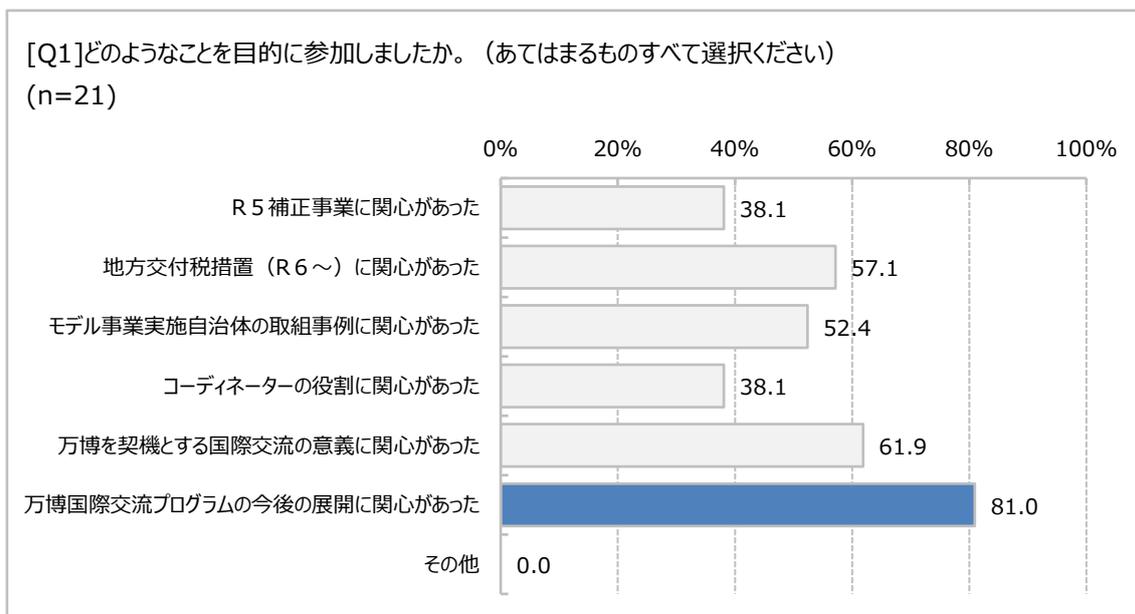
自治体	フレーズ及び背景・解説
奈良県	<p><b>【フレーズ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相互往来を契機として、教育分野をはじめとする交流の具体化を目指す。</li> <li>・ 2025 大阪・関西万博にウズベキスタン・サマルカント州の方が来た際には奈良県にも立ち寄って頂きたい。</li> </ul> <p><b>【背景・解説】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍では、対面にて交流したことがなかった。</li> <li>・ また実際にウズベキスタンへ仕事で訪問した職員はいなかった。対面での交流により、より具体的な話が進んだ。</li> </ul>
宮田村	<p><b>【フレーズ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回、自動翻訳システムを来日時の日程説明や歓迎セレモニーの首長や校長挨拶、またホストファミリー対面式の際に活用したが、それぞれの場面で大変有効であった。</li> </ul> <p><b>【背景・解説】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宮田中学校の生徒からは、自動翻訳システムがあることで相手とコミュニケーションができて助かったという意見や、とても便利で国際交流の際にはぜひ活用したいとの感想があった。</li> <li>・ 今後も、事前学習として遠隔多人数翻訳サービス等を活用した、大阪・関西万博のテーマや SDGs 等の地域の課題解決のワークショップの開催を検討したい。</li> </ul>
村山市	<p><b>【フレーズ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続的な交流や関係人口の拡大、市民・地域・相手国に寄り添った交流が重要。</li> <li>・ 万博はきっかけであり新たな可能性をみいだすことが大事。</li> </ul> <p><b>【背景・解説】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続的な交流により市民の理解を得たり、国際交流のハードルを下げることに繋がった。</li> <li>・ 一つのジャンルに絞らず多様なジャンルの交流により関係人口の拡大を図ることができた。</li> <li>・ オンラインではなくなるべく市民に寄り添い、市民に近い形で交流を行うことが重要と感じた。</li> </ul>
浦幌町	<p><b>【フレーズ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手国の有力者であるウスビ・サコ氏や地方行政官との連携によりスムーズ</li> </ul>

自治体	フレーズ及び背景・解説
	<p><b>に事業が進んだ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>与えるだけでなく、マリから学ぶという姿勢が大事。</b></li> </ul> <p><b>【背景・解説】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会副会長のウスビ・サコ氏と連携した。</li> <li>・ マリ共和国から議長や市長などの地方行政官の方々が計 8 名来町。</li> <li>・ 浦幌町で行われている官民協働のまちづくりを学び、農業現場を訪問するなどして、地域住民との交流を深めた。</li> </ul>
有田市	<p><b>【フレーズ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>未来を担う子どもたちには世界を知って、将来国際的に活躍をできるようになってもらいたい。</b></li> <li>・ <b>環境に配慮したエネルギーを活用できる人材育成に寄与していきたい。</b></li> </ul> <p><b>【背景・解説】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 万博国際交流プログラムを契機とした教育交流を促進するため、ドバイ GEMS アル・バルシャ・ナショナル・スクールとの連携協定（覚書）を締結した。</li> </ul>

## (2) 成果報告会実施後のアンケート

成果報告会実施後にアンケートを聴取した。21名からの回答が得られた。

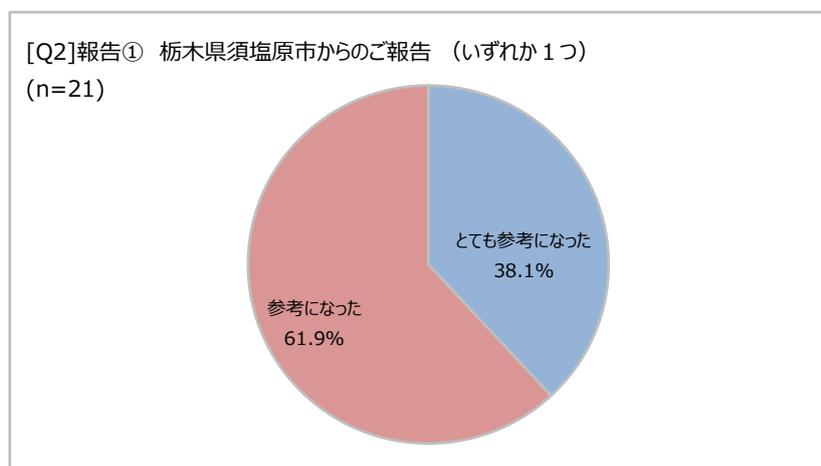
Q1では、「どのようなことを目的に参加しましたか。」を聴取した。万博国際交流プログラムの今後の展開に関心があったと回答した人の割合は81.0%であった。



Q2～Q15では、7自治体からの事例報告が参考になったかどうかを聴取し、その中で特に興味を持った取組や新たな気づきとなった点等があった場合に自由記述にて聴取した。

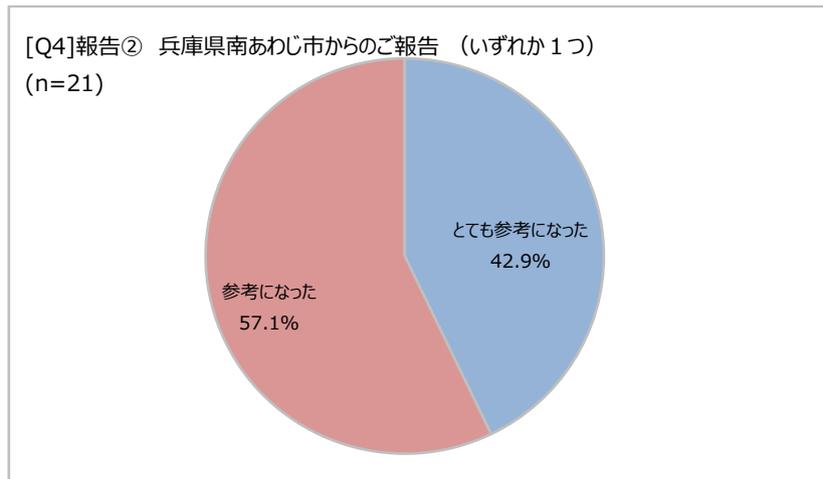
Q2では、「栃木県那須塩原市からのご報告」について参考になったかどうかを聴取した。とても参考になったと回答した人の割合は38.1%、参考になったと回答した人の割合は61.9%であった。

Q3その理由としては、「青少年の合唱の交流について、岐阜市では対面でのみの交流を行っているため、オンラインでの交流をした須塩原市さんの取組は大変参考になった。」、「広域連携に広がりを作っていて凄い。」、「中学生同士の合唱に感動しました。」との意見があった。



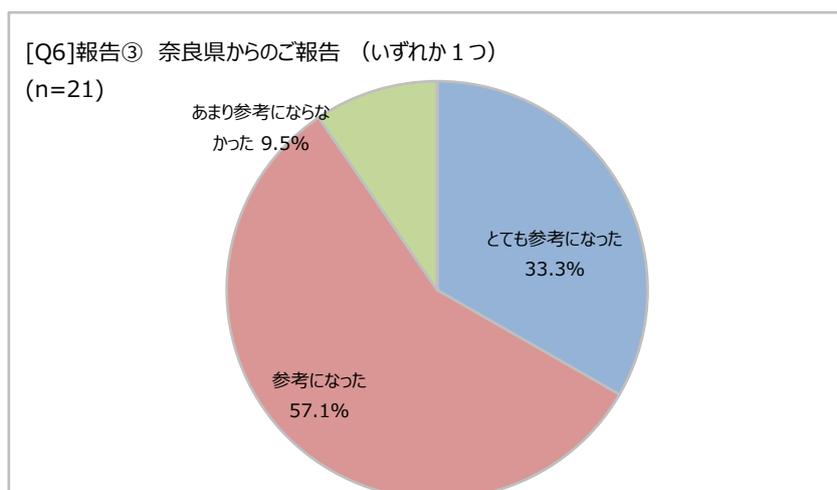
Q4では、「兵庫県南あわじ市からのご報告」について参考になったかどうかを聴取した。とても参考になったと回答した人の割合は42.9%、参考になったと回答した人の割合は57.1%であった。

Q5その理由としては、「玉ねぎが斬新すぎましたが、取り組み内容など参考にしたいと思いました。」、「現在青少年交流として、学校での交流などを行っているが、特産物を通じた交流という新たな事業を知ることができてよかった。」、「音楽と食様々な可能性を感じた。」、「お互いの特産品を使って様々な連携を行っていたところ。」との意見があった。



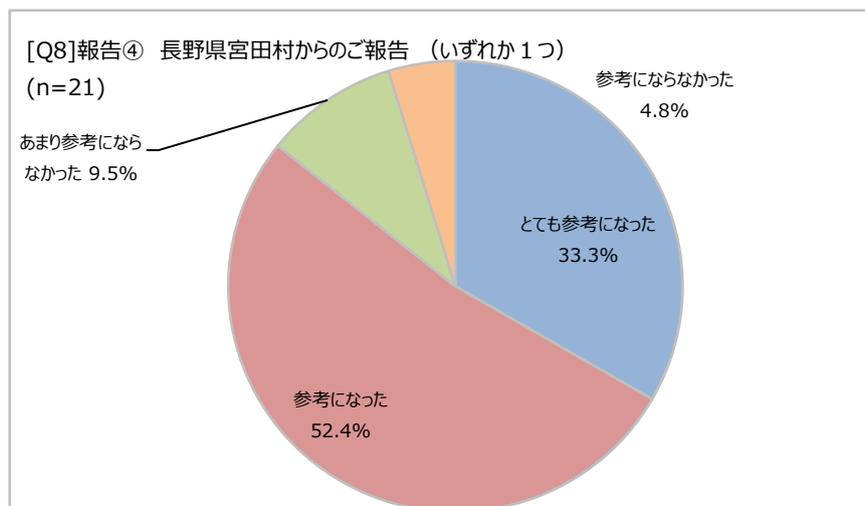
Q6では、「奈良県からのご報告」について参考になったかどうかを聴取した。とても参考になったと回答した人の割合は33.3%、参考になったと回答した人の割合は57.1%、あまり参考にならなかったと回答した人の割合は9.5%であった。

Q7その理由としては、「ウズベキスタンという新たな関係を気づいて行くステップは参考になった。」との意見があった。



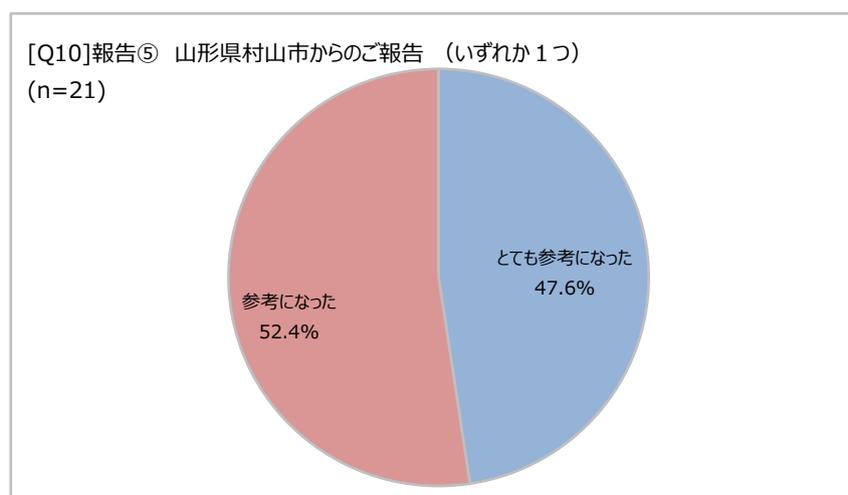
Q8では、「長野県宮田村からのご報告」について参考になったかどうかを聴取した。とても参考になったと回答した人の割合は33.3%、参考になったと回答した人の割合は52.4%、あまり参考にならなかったと回答した人の割合は9.5%、参考にならなかったと回答した人の割合は4.8%であった。

Q9その理由としては、「岐阜市では企業と連携をして交流を行うということがないため、どのようにして企業と自治体が連携をして交流を進めているのか、興味がある。」、「言葉の壁を技術がカバー出来る良い取り組み。」との意見があった。



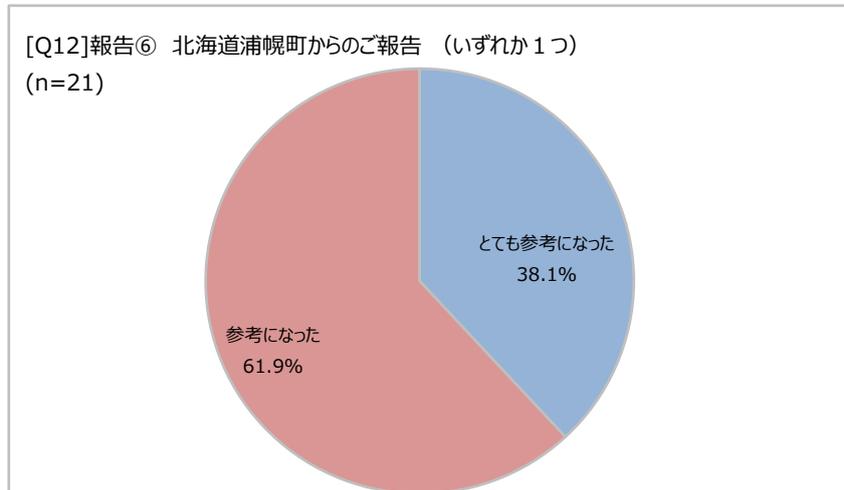
Q10では、「山形県村山市からのご報告」について参考になったかどうかを聴取した。とても参考になったと回答した人の割合は47.6%、参考になったと回答した人の割合は52.4%であった。

Q11その理由としては、「岐阜市では杭州市より文化芸術団を招聘し公演を行なったが、村山市さんも似たような事業を行っているため、今後の交流がどのように行われるかもとても興味を持った。」、「市民の巻き込み方が参考になった。」との意見があった。



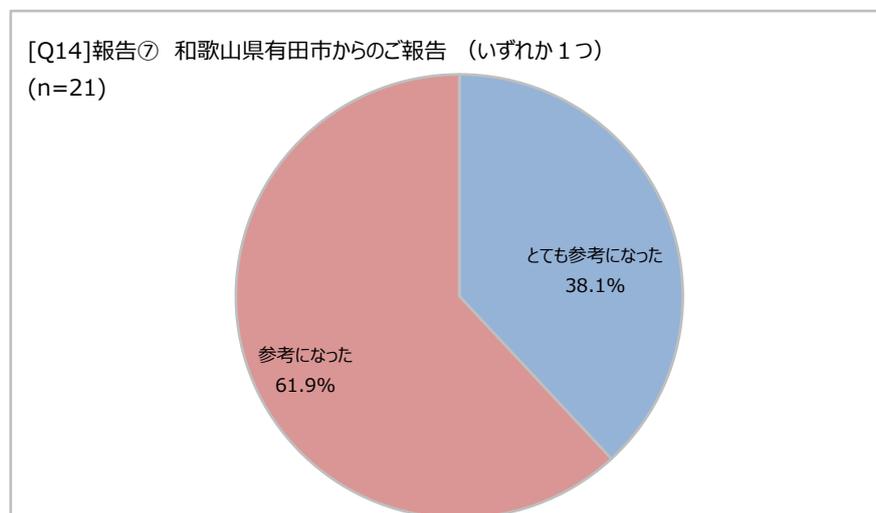
Q12では、「北海道浦幌町からのご報告」について参考になったかどうかを聴取した。とても参考になったと回答した人の割合は38.1%、参考になったと回答した人の割合は61.9%であった。

Q13その理由としては「若者を軸としたまちづくりと、マリの現状を組み合わせた好事例。」、「アフリカとの心温まる交流がよかった。」との意見があった。



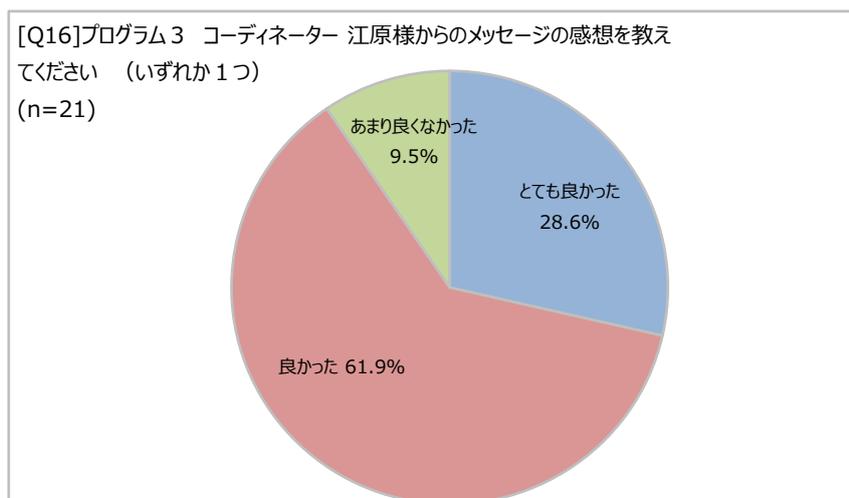
Q14では、「和歌山県有田市からのご報告」について参考になったかどうかを聴取した。とても参考になったと回答した人の割合は38.1%、参考になったと回答した人の割合は61.9%であった。

Q15その理由としては「コンタクトパーソンの重要性を理解できた。」との意見があった。

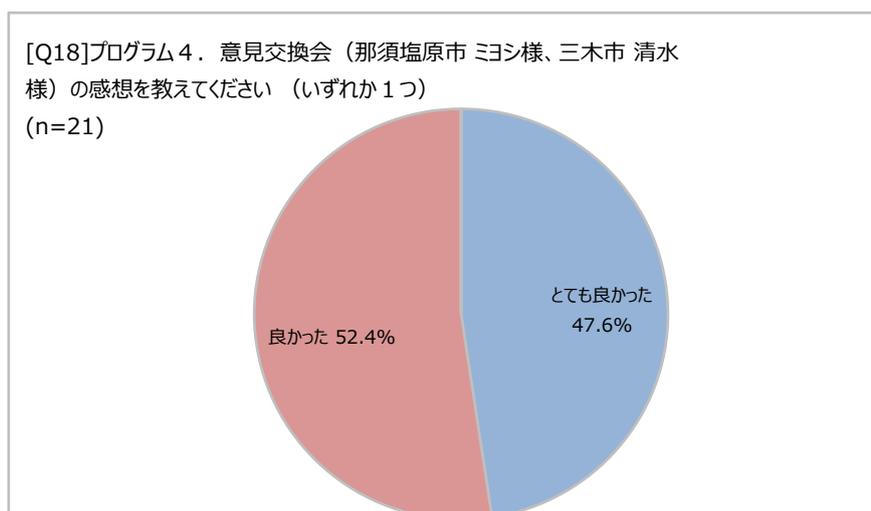


Q16では、「コーディネーター 江原様からのメッセージの感想」を聴取した。とても良かったと回答した人の割合は28.6%、良かったと回答した人の割合は61.9%、あまり良くなかったと回答した人の割合は9.5%であった。

Q17その理由としては「コーディネーターにより、イタリアトローペア市のホテル等が自発的に宣伝をしたり、イベントを行うなどされていたが、コーディネーターは市からどのように依頼をされてこのように動いたのか、コーディネーターと自治体の連携についてより伺いたいと思った。」「目的を共有することが大切である事を改めて教えてもらった。」との意見があった。



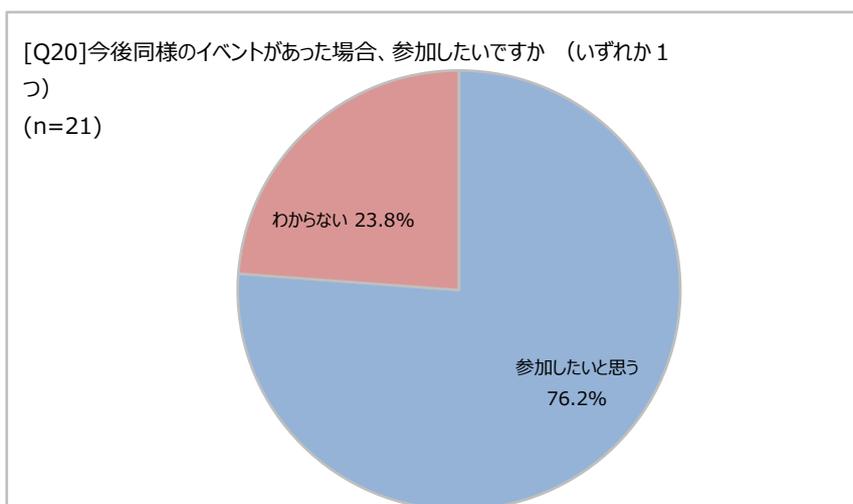
Q18では、「4.意見交換会（那須塩原市 みよし様、三木市 清水様）の感想」を聴取した。とても良かったと回答した人の割合は47.6%、良かったと回答した人の割合は52.4%であった。



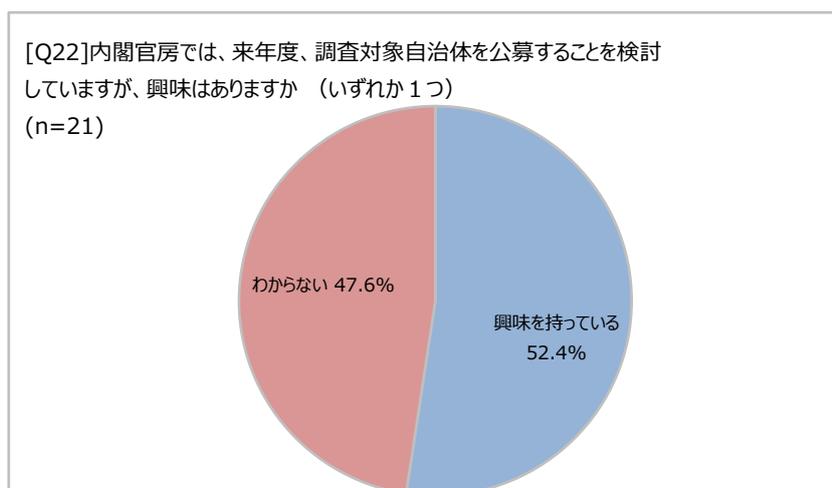
Q19 では、「全体を通じて、特に興味を持った取組事例や新たな気づきとなった点等」を聴取した。ご意見として、「まず始めてみましょうと呼びかけていただいたのはとても良かったと思います。」との意見があった。

Q20 では、「今後同様のイベントがあった場合、参加したいですか。」を聴取した。参加したいと思うと回答した人の割合は 76.2%、わからないと回答した人の割合は 23.8%であった。

Q21 その理由としては「良事例について、引き続き伺えればと思います。」、「オンラインでもストレスなく参加できた。」、「想いを知り、仲間が出来る素晴らしい機会だと感じました。」、「担当部署が積極的ではないため。」との意見があった。

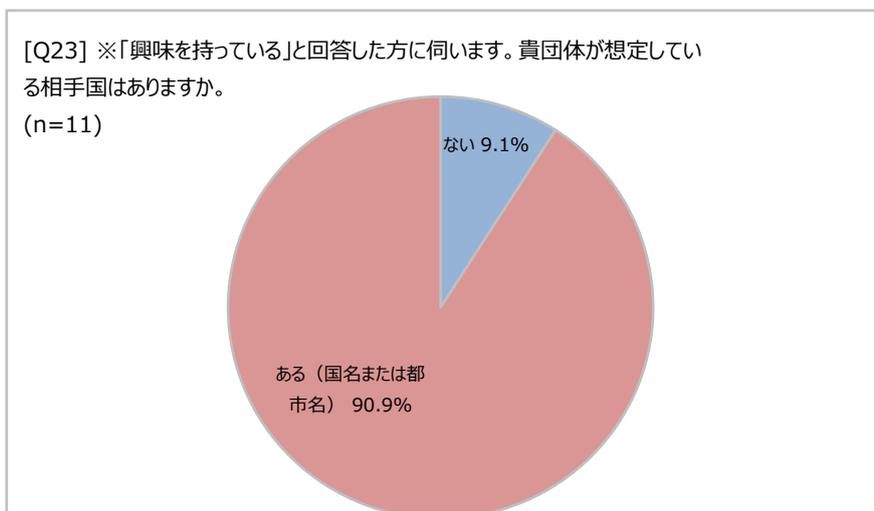


Q22 では、「内閣官房では、来年度、調査対象自治体を公募することを検討していますが、興味はありますか」を聴取した。興味を持っていると回答した人の割合は 52.4%、わからないと回答した人の割合は 47.6%であった。



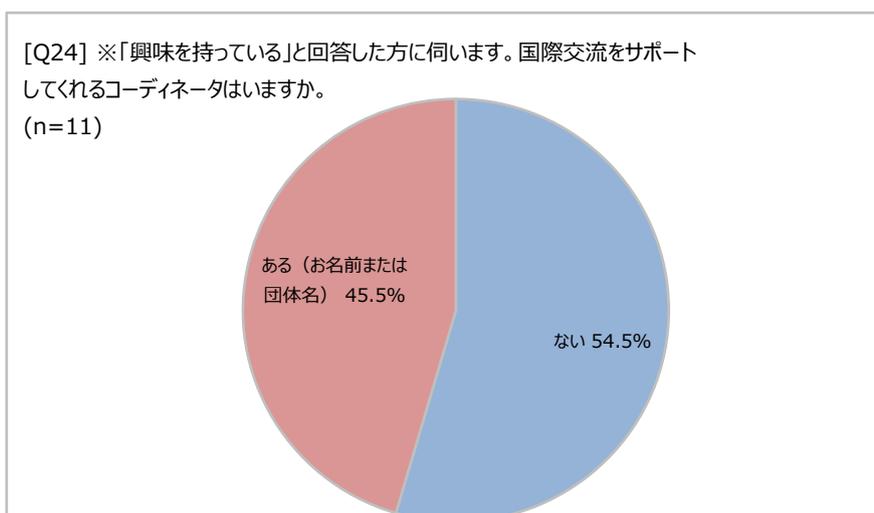
Q23 では、「興味を持っていると回答した団体として想定している相手国があるか」を聴取した。あると回答した人の割合は 90.9%、ないと回答した人の割合は 9.1%であった。

Q24 その相手国名として、「チェコ」、「ブルガリア」、「フランス」、「ネパール ポカラ市」、「アゼルバイジャン」、「ドバイ」、「中国、インドネシア、米国、英国、仏国、カナダ、ロシア、ベトナム」、「ドミニカ共和国」、「分からない」との回答があった。



Q25 では、「国際交流をサポートしてくれるコーディネーターはいますか」を聴取した。あると回答した人の割合は 45.5%、ないと回答した人の割合は 54.5%であった。

Q26 挙げられたサポート先としては、「JOCA」、「JICE」、「総領事館」、「大使館」などが挙げられた。「サポートがない」と回答した人は 6 人であった。



## 2. 事業の成果概要

第2章「調査対象プロジェクトの実施結果」をもとに、事業成果の分析を行い、各調査対象プロジェクトの評価、及び他自治体への普及・展開方策につながる示唆を検討する。

事業の成果概要として、実施結果に対する評価に係る項目について分析結果を記載する。

事業の成果概要

自治体名	調査対象自治体内への波及効果	実施により達成できた成果	相手国への波及効果	大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与
那須塩原市・矢巾町・長井市	・3自治体がオーストリアとの合唱交流を一緒に取り組むことで、自治体・学校関係者・中学生同士の連携がより深まった	・合唱交流という共通目的に取り組むを行うことで、達成感と連帯感が生まれ、引き続き次年度への交流意欲が高まった	・訪日後、2日間発表会に向けて一緒に行動することで、言葉は通じなくても音楽を通して強い絆が生まれた	・大使やオーストリア万博関係者が参加したことで、万博会場で両国学生が合唱を披露することへの期待が高まった
岐阜県	・アルザス欧州自治体への訪問により、観光、文化、青少年等の交流再開の議論が深められた	・来年度10月にアルザス関係者の訪日予定であること、青少年のスポーツ交流再開に向けた視察の実施を確認した	・岐阜県の関心が高まり、訪日への期待が膨らんだ。また、ぎふ文化際へ出展等、様々な分野での交流が期待される	・フランスパピリオンに「アルザスワイン委員会」が関与することが判明し、開催期間中に会場内外での連携が期待される
岐阜市	・杭州市との友好、友情を養う基礎が築けた	・多くの岐阜市民が中国文化にふれる機会を創出し、国際交流に興味を持つきっかけづくりができた	・岐阜市への興味・関心や今後の交流意欲を向上させた	・青少年との交流は、後世に引き継いでいくためには欠かせないものであったと実感した

自治体名	調査対象自治体内への波及効果	実施により達成できた成果	相手国への波及効果	大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与
恵那市	<ul style="list-style-type: none"> <li>万博の開催自体を新たに知った生徒、万博に対する興味が増した生徒が増えた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本美術技術博物館御一行を招聘したことにより、今後の交流が円滑に行える素地ができた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>岐阜県、恵那市への理解を深めることができ、博物館・美術館の協定締結等、交流が進んでいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポーランドパピロンに生徒が登壇するなど、恵那市ならではの機会を作りたい</li> </ul>
八百津町	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園・保育園、小中学生、町民が参加することで、今後の国際交流の関心を高めることができた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>八百津町民の異文化の理解が深まったとともに、今後も継続した国際交流ができる土台となった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も八百津町との交流が計画されており、リトアニアへの派遣や招聘を行う予定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的に交流可能なものとなったため、今後も子どもたちが海外の文化を知る機会を設けたい</li> </ul>
三木市	<ul style="list-style-type: none"> <li>三木市の文化や産業、人に触れるきっかけづくりが万博を通じて行う良い機会になるという回答を得られた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業交流による持続可能な関係構築に寄与する大きな一歩となった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>万博会場や交流に係る具体的な事例として都度共有を図ることで、具体化に向けて想いを伝える関係構築ができた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業交流による両国がつながり、日本酒との新たな食文化のコラボによる文化をフランス事業者とともに創りたい</li> </ul>
南あわじ市	<ul style="list-style-type: none"> <li>本事業での取り組みを市長に報告し、来年度に市長がトロペア市を訪問することとなった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>万博での催事関係はイタリア政府が取りまとめ、イタリア館のイベント等は伊日財団管轄であり、つながりを作ることができた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トロペア市の子どもたち約50人、保護者約30人がイベントに参加し、南あわじ市の玉ねぎを知っていただくことができた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>万博会場内での共同出展は、両首長の強い思いであったため、これをきっかけに、交流を続けたい</li> </ul>

自治体名	調査対象自治体内への波及効果	実施により達成できた成果	相手国への波及効果	大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与
奈良県	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者協議による関係構築のほか、県内中学校への相手国、大阪関西万博に対する関心・期待への寄与した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウズベキスタン共和国サマルカント州政府関係者との次年度以降の交流計画の合意</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地青年との交流、現地中学生とのオンライン交流など計画されている。奈良県との交流に積極的であり高い関心を寄せている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>両県州知事の相互往来による関係強化と学生・青年の若い世代の交流による継続的な往来（留学生の受け入れ等）</li> </ul>
有田市	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内中学生へのドバイ派遣やオンライン交流を行うための関係作りが行えた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドバイ GEMS 校との協定締結（共同教育、学生交流、文化交流等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大阪・関西万博に合わせてドバイ GEMS 校の学生が日本へ派遣される。またオンライン交流など実施予定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>万博を契機とした相手国との交流は、国際感覚の涵養、次世代エネルギーなどについて探求し先端技術等についても学ぶ機会となる</li> </ul>

### 3. 他自治体への普及・展開方策

#### (1) 交流事業の計画策定及び実施にあたっての過程の評価

##### 1) 産業振興担当部署及び地元事業者を交えた交流事業計画を策定

国際交流プログラムは、各国と交流することを通じて、地域の未来を担う若者の国際感覚の涵養、地域の魅力の再発見、住民間の結びつき強化に加え、地域産業の活力の増強が期待される取組である。

地域産業の活力増強を狙うのであれば、自治体が主導する取組に終始することなく、官民が連携した取組を実施することが重要であり、国際交流担当部署だけでなく、庁内の産業振興担当部署や地元事業者が協力した協働活動であることが望ましい。

三木市では、交流事業の計画策定段階から産業振興担当部署や市内事業者を体制に加えている。

最初は自治体主導で国際交流担当部署と産業振興担当部署が計画を構想したとしても、策定段階から地元事業者などを加え、実施段階では官民による連携や民間による自発的な活動を促進することが望ましい。

##### 2) コーディネーターを活用した取組

本調査対象プロジェクトでは、円滑な国際交流を実現するためにコーディネーターを各調査対象自治体に設置した。

設置したコーディネーターは、外国に関する専門家（相手国との交渉、招へい者の調整、海外出張における各種手配等）や交流イベント等の企画（地域の青年会議所、商店街、商工会等を巻き込んだイベント企画等）、教育交流の専門家（学校等を巻き込んだイベント企画等）などである。

有田市では、相手国のドバイの文化・宗教面に精通する外国に関する専門家として、在ドバイ日本国総領事館や現地の関係機関とのネットワークを有する JICE（一般財団法人日本国際協力センター）を現地コーディネーターに迎え、オンライン交流及び現地での交流を円滑に実施し、教育交流を目的とした GEMS 校との協定締結に至ることができた。

有田市では、これまで教育分野での国際交流はオーストラリアと行ってきたが、中東地域との交流の機会や文化に触れることがなく、自分たちの常識や感覚と相手方と相違がないかなど不安な面もあったが、JICE のコーディネーターの助言を受けながら、来年度に繋がる大きな成果を残すことができた。

通訳や現地案内だけでなく、包括的なファシリテーション業務を行うスキルを有するコーディネーターを活用することで、プロジェクトの成果を高めることが可能となる。

国際交流に経験が浅い自治体などはコーディネーターを活用することが望ましい。

## (2) 事業の達成に向けた調査対象自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制

### 1) 国際交流員の活用

国際交流を円滑に実施するためには、相手国の言語を通訳できる人材と交流プログラムを企画し、実行できる人材を確保する必要がある。

那須塩原市では、国際交流担当部局に配属された相手国であるオーストリア出身の国際交流員が、那須塩原市職員と交流プログラムの企画を検討し、相手国の市長や相手高等学校校長の間を取り持ち、那須塩原市への招へいにつなげ、大きな活躍をすることで、今後の国際交流を実施する際の人的ネットワークを築くことができた。

自治体には地域の国際交流推進を図るために招致した外国人が在籍している場合が少なくなく、当該国際交流員は、翻訳や通訳のほか、国際理解のための交流活動を行っている。

彼ら彼女らの多くは、高い日本語能力を有し、国際交流に意欲が高く、母国のキーマンや母国の国際交流関係機関とのネットワークを有している場合が少なくない。

このような国際交流員を実施体制に加えることは、短期間で国際交流プログラムに有効な人的ネットワークを構築し、事業を円滑に実施し、成果を得るために有効であると考えられる。

### 2) 自治体連携による取組

相手国と国際的なネットワークを形成し、継続して交流事業を推進するには、ヒト、モノ、カネ、情報の経営資源を確保し、管理する必要があり、リソースが限られている自治体が単独で実施する場合、経営資源の分配の状況次第では、継続性が危ぶまれることもある。

また、地震や津波、台風、異常気象などによる交流イベント中止のリスクもある。

事業の継続性を高め、交流イベント中止のリスクを軽減するためにも、複数の自治体の連携によって事業の継続性を高め、最大の効果を得るような取組を検討する必要がある。

相手国を共にする自治体が連携する場合は、経営資源を共有化することで、事業運営の効率化が図られるとともに、事業推進に必要なノウハウが共有され、広報手段の拡充などで広報力が高まるなどの利点が挙げられる。

一方、連携することで意思決定に多少時間がかかるというデメリットもあるため、連携体制を構築する場合は、オンラインなどで定期的に会合を開催する、もしくは情報共有のためのプラットフォームを構築するなどの取組が考えられる。

## (3) 万博閉会後の事業継続性（相手国との関係性の評価）

今年度はそれぞれの調査対象自治体において、子どもを中心とする国際交流の取組が実施され、相手国や 2025 年に開催される大阪・関西万博への関心が高まった。

次世代を担う子ども達や学校関係者、保護者などの一般市民を交流事業に巻き込むことは、国際交流プログラムの取組を一過性のものと終わらせることなく、相手国や市民との交流を末永く続ける上での重要な工夫であると考えられる。